722

授業科目名	Oral CommunicationⅡ				
担当教員名	工藤 律子				
学年・コース等	2回生	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「可・不可」

授業概要

本科目では、英語力の基礎となる文法事項を整理して学び直し、これまで知識として身につけていた英文法をコミュニケーションで使える道具に転換することを目的とします。毎回の授業では、平易な例文で英文法の知識を整理し、かつ実際の英会話の場面を想定した発話練習を繰り返すことによって、知識を定着させます。また、ペアワーク、グループワークを多く盛り込むことによって、協働して課題に取り組む姿勢を育成します。最終的には、まとまりのある文章を「聞いて理解」、「読んで理解」できるようになること、英語でまとまりのある文章を「話す」「書く」ことができることを目指します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	日常生活を送る上で必要とされる英会話能力、英文読解・聴解能力	日常生活において、最低限のことは英語で会話することができる。また、英語で伝えられる情報を読解・聴解することができる。
汎用的な力		
1. DP8.意思疎通		各授業内でのペアワーク、グループワークを通じて、英語で自分のことを説明し理解してもらうことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「-」とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
多読	20 %	:	ブックリポートを評価します。
Review Quiz	20 %	:	第14回の授業で、既習単元の理解度を確認するReview Quizを実施します。そのReview Quizの結果を評価の20%とします。
レポート課題	30 %	:	特別授業の事前準備、事後報告を評価するためのレポート課題を課します。語彙力、表現力、思考力と特別授業に臨む姿勢について、5段階で評価します。
定期試験	30 %	:	試験期間中に既習単元を基にした実力テストを実施して、その結果を評価の30%とします。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年

Hiromi Akimoto, Mayumi Hamada ・ Grammar Network ・ Cengage Learning ・ 2019 年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回２時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業後・授業前

場所： 授業の教室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**Can I have a single room tonight? (助動詞①：can / may / should / must / have to / had better)** ・助動詞の基本的な用法を整理して、英語で他人に依頼したり、依頼を受けたりできるように練習します。 ・義務や必要性を表す助動詞の基本的な用法を整理して、規則として守らなければならないことを英語で説明できるように練習します。	第1回 で学習した単語・表現を復習し、第2回から始まる小テストに備えます。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	2時間
第２回	**Do I have to sign up for the lesson? (助動詞①：ルールや依頼文を作成しよう)** ・適切な助動詞を用いて、授業中に守らなければならないルールを英語で説明する文章を作成し	第2回 で学習した単語・表現を復習する。次の単元に出てくるわからない単語を調べて、内容を予習しておきます。	2時間
第３回	**That would be the perfect thing to do (助動詞②：could / would)** ・可能性、提案、過去の習慣などの表現を理解します。 ・丁寧な依頼文となるように留意して、購入した商品についての問い合わせメールを英語で作成します。	第3回で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	2時間
第４回	**Did you bring anything to eat? (不定詞①：基本用法)** ・不定詞の基本的な用法を整理して、物事の用途や行動の目的を英語で説明できるように練習します。	第4回 で学習した単語・表現を復習する。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	2時間
第５回	**I’m too excited to sleep tonight (不定詞②：構文)** ・It is ～for toやtoo ～toの形を用いた表現を理解する。 ・不定詞を用いて、自分が取り組んでいること、取り組んでみたいことについて、その目的と共に説明する文章を作成します。	第5回 で学習した単語・表現を復習する。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	2時間
第６回	**It’s the most popular restaurant (比較)** ・比較級、最上級、同格の基本的な用法を整理して、2つ以上のものを比較して物事を英語で説明できるように練習します。	第6回 で学習した単語・表現を復習する。特別授業の事前準備をしておきます。	2時間
第７回	**It’s the most popular restaurant (自分達でストーリーを作ろう)** ・比較に関する表現を用いて、グループでオリジナルの文を作ります。	第7回 で学習した単語・表現を復習する。次の単元に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	2時間
第８回	**The guy who moved next door is very strange (関係詞①：関係代名詞)** ・関係詞の基本的な用法を整理して、様々な事柄について詳細な情報を英語で加えられるように練習します。 ・関係詞を用いて、自分の尊敬する偉人について説明する文章を作成します。	第8回 で学習した単語・表現を復習する。次の単元に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	2時間
第９回	**That’s where I was born (関係詞②：関係副詞)** ・関係副詞の基本的な用法を整理して、様々な事柄について詳細情報を英語で加えられるように練習します。 ・関係詞を用いて、自分の生まれた場所や思い出を表現できるようにします。	第9回 で学習した単語・表現を復習する。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	2時間
第10回	**関係詞まとめ** ・関係代名詞と関係副詞の違いについて説明できる。 ・適切な表現を選んで、情報を付け加えた文章を作成できる。	第10回 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	2時間
第11回	**I watched a very exciting movie (分詞)** ・前置修飾、後置修飾などの文の形を理解し、名詞を詳しく説明できるようにします。	第11回 で学習した単語・表現を復習する。次の単元に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	2時間

第12回	**If you were me, where would you go? / I shouldn’t have done such a stupid thing（仮定法過去・過去完了）** ・仮定法の基本的な用法を整理して、仮定の話として物事を英語で説明できるように練習します。	第12回 で学習した単語・表現を復習する。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	2時間
第13回	**If you were me, where would you go? / I shouldn’t have done such a stupid thing（仮定の話をしよう）** ・仮定法を用いて、「世界のどこにでも行けるとしたらどこに行きたいか」という内容の英語エッセイを作成します。	第13回 で学習した単語・表現を復習する。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	2時間
第14回	**仮定法まとめ** ・第12回～13回の内容を理解し、適切な場面で、仮定法をしようすることができる。 ・既習事項のreview quizを行う。	1回～14回までに学んだ単元を復習し、テストに備える。	2時間

722

授業科目名	**グローバル中国語圏文化論**				
担当教員名	浅野 法子				
学年・コース等	2回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本科目では文学作品や映画、サブカルチャー等から中華圏の歴史や文化に触れることを目的としています。とりわけ人物に焦点をあてながら、その背景にある歴史や文化について考えます。日本や欧米諸国とは異なる国や地域のひとつである中国語圏を知ることで、異文化に対するさまざまな考え方を知り、多文化共生社会を生きる上で必要な知識と態度を身につけます。
ここではそれぞれが関心をもったテーマを調査し、発表することを取り入れます。また、毎回の授業で中国語に着目し、言語からも中華圏への理解を深めることを試みます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	異文化やコミュニケーションに関する知識	異文化やコミュニケーションについて、学術的な定義づけや多数の事例をもとに、正しく理解することができる。
汎用的な力		
1. DP4.課題発見		グローバル社会のなかで異文化理解をすることの意義や起こりうる問題点について、インターネットや書籍の情報をもとに検討することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」(評価しない)とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
プレゼンテーション	20 %	： プレゼンテーションについては、講義内容の理解と調査結果の充実、考察の独自性をもとに採点します。それぞれ20点満点とし、全部で評価の20%とします。
期末レポート	30 %	： 講義内容の理解と知識の定着を基準に採点します。30点満点とし、評価の30%とします。
意見文	30 %	： 意見文（毎回授業後に提出）について、講義内容の理解と考察の独自性をもとに評価で採点します。2-3ポイント×14回分で評価し、全体評価の30%とします。
小テスト	20 %	： 第5回目と第10回目に理解度をはかる小テストを実施します。１回分を10点満点とし、評価の20%とします。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　浅野：水曜3限

場所：　研究室（西館5階）

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション：中国語圏とは** ・授業の進め方、評価方法について ・授業で取り上げる国や地域について ・日本人がみた中国語圏――著名人が記した中国語圏について知る ・中国語という言語について	・配布資料の予習（漢字について）	4時間
第2回	**ことば――漢字の世界** ・表意文字と表音文字について ・漢字の成り立ちについて 言葉の違い①：繁体字文化と簡体字文化	・配布資料の予習（ピンインについて）	4時間
第3回	**歴史①清末から中華民国まで** ・映画「宋家の三姉妹」鑑賞（一部） ・時代背景と登場人物について 言葉の違い②：発音について	・配布資料の予習（中国語の母音と子音）	4時間
第4回	**歴史②建国から現代まで** ・時代背景と人物について 言葉の違い③：母音と子音について	・配布資料の予習（「故郷」「藤野先生」を読む）	4時間
第5回	**文学①魯迅の文学と人について** ・魯迅の年譜を読む ・講読「故郷」「藤野先生」 言葉の違い④：声調と軽声について	・配布資料の予習（「みかんぢょうちん」を読む）	4時間
第6回	**文学②謝冰心の文学と人について** ・謝冰心の年譜を読む ・講読「みかんぢょうちん」 言葉の違い⑤：漢字の由来	・配布資料の予習	4時間
第7回	**伝承文学について** ・「むかしむかし」で始まる物語を講読し、日本の昔話との関連や、派生作品について考察する 言葉の違い⑥：あいさつ	・配布資料の予習	4時間
第8回	**香港映画：カンフーとキョンシー** ・関連映画一部鑑賞 ・作品の背景と登場人物について 言葉の違い⑦：名詞	・配布資料の予習	4時間
第9回	**台湾映画：「流星花園」** ・映画「流星花園」鑑賞（一部） ・作品の背景と登場人物について 言葉の違い⑧：動詞	・配布資料の予習	4時間
第10回	**大陸映画：武侠小説の映像化** ・関連映画一部鑑賞 ・作品の背景と登場人物について 言葉の違い⑨：肯定文と否定文	・配布資料の予習　・調査のまとめ	4時間
第11回	**歌謡曲とC-POP** ・歌手や歌から時代背景等を理解する 言葉の違い⑩：疑問文	・配布資料の予習　・調査のまとめ	4時間
第12回	**アニメーション** ・アニメーションから社会情勢を理解する 言葉の違い⑪：能願動詞	・配布資料の予習　・発表準備	4時間
第13回	**日本の中華街**	・配布資料の予習	4時間

	・身近な中国を探す 言葉の違い⑫：数の表現、曜日と時刻の表現		
第14回	**まとめ――異文化を理解する：発表のまとめ** ・講義内容の振り返り ・多文化共生社会を生きる上で必要な力について考える	・授業の振り返り　・レポートの提出準備	4時間

722

授業科目名	**異文化理解Ⅰ**				
担当教員名	麻畠 徳子				
学年・コース等	2回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「可」

授業概要

グローバル化が進む21世紀において、さまざまな文化的差異を乗り越えて、あらゆる人が理解し合い共生できる社会を構築することが求められています。本科目では、そんな社会を構築するうえで必要な異文化理解力を培うため、英語圏の映像作品を題材として、その内容を理解するための背景知識を学習し、さらに英語と日本語の言語的、文化的違いを考察します。各授業では、英語の聴解・読解学習を英語力向上に生かすとともに、娯楽作品として描かれる文化的表象や台詞のなかにある異文化的要素を考察し、論理的に分析できる力を育成します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	日本語と英語の言語的相違への理解、異文化理解	英語と日本語との比較を通じて、双方の文化や表現の違いについて説明できる。
汎用的な力		
1. DP8.意思疎通		日本語と英語の文化の違いに基づいた表現の違いを理解し、適切な表現を用いて意見を述べることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
小テスト	30 %	： 毎回の授業の最初に、前回の授業の理解度を測る小テスト（参照可）を実施します。全体の平均点を評価の30%とします。
授業内課題	40 %	： 授業内課題として、複数回授業内容の理解に基づいた論述レポートを課し、その提出状況と内容への評価点をもとに、評価の40%とします。
期末レポート	30 %	： 14回授業後に、講義内容に基づいて、自分で作品を選び論述する最終レポートを提出します。その結果を、評価の30%とします。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

SCREENPLAYシリーズ（名作英語完全セリフ音声集）
①『バック・トゥ・ザ・フューチャー』
②『プラダを着た悪魔』
③『ノッティングヒルの恋人』
④『ローマの休日』

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜1限

場所： 研究室（西館5階）

備考・注意事項： メールアドレス：asahata@osaka-seikei.ac.jp

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、異文化理解力とは** ・授業の進め方や評価方法について確認します。 ・異文化理解力とはなにかをグループで話し合います。	第1回で学習した内容を整理し、ノートにまとめて小テストに備えます。次の授業で扱う作家や作品について調べておきます。	4時間
第2回	**文化とコミュニケーション①ー『バック・トゥ・ザ・フューチャー』に見る異文化コミュニケーション** ・『バック・トゥ・ザ・フューチャー』についての予備知識を身につけるため、情報を集めます。 ・『バック・トゥ・ザ・フューチャー』を聴解し、字幕と英語のスクリプトとの比較をして、相違を分析します。	第2回で学習した内容を整理し、ノートにまとめて小テストに備えます。第2回で学んだことに基づいて、自分の分析を論述できるようにまとめておきます。	4時間
第3回	**文化とコミュニケーション②ー『バック・トゥ・ザ・フューチャー』の考察** ・『バック・トゥ・ザ・フューチャー』を聴解し、字幕と英語のスクリプトとの比較をして、相違を分析します。 ・『バック・トゥ・ザ・フューチャー』における娯楽性の要因となっている文化的相違について、1950年代と1980年代のアメリカ社会の相違という観点から考察します。	第3回で学習した内容を整理し、ノートにまとめて小テストに備えます。次の授業で扱う作家や作品について調べておきます。	4時間
第4回	**文化とコミュニケーション③ー文化的差異を生む要素とは** ・『バック・トゥ・ザ・フューチャー』における娯楽性の要因となっている文化的相違について、1950年代と1980年代のアメリカ社会の相違という観点から考察したことをまとめます。 ・異文化理解における「文化」「コミュニケーション」の定義を学びます。	第4回で学習した内容を整理し、ノートにまとめて小テストに備えます。第4回で学んだことに基づいて、自分の分析を論述できるようにまとめておきます。	4時間
第5回	**文化と価値観①ー『プラダを着た悪魔』に見る価値観** ・『プラダを着た悪魔』についての予備知識を身につけるため、情報を集めます。 ・『プラダを着た悪魔』を聴解し、字幕と英語のスクリプトとの比較をして、相違を分析します。	第5回で学習した内容を整理し、ノートにまとめて小テストに備えます。次の授業で扱う作家や作品について調べておきます。	4時間
第6回	**文化と価値観②ー『プラダを着た悪魔』の考察** ・『プラダを着た悪魔』を聴解し、字幕と英語のスクリプトとの比較をして、相違を分析します。 ・『プラダを着た悪魔』における価値観の相違のポジティブな効果とネガティブな効果について、アンディとミランダの対立という観点から考察します。	第6回で学習した内容を整理し、ノートにまとめて小テストに備えます。第6回で学んだことに基づいて、自分の分析を論述できるようにまとめておきます。	4時間
第7回	**文化と価値観②ー文化と価値の関連性とは** ・『プラダを着た悪魔』における価値観の相違のポジティブな効果とネガティブな効果について、アンディとミランダの対立という観点から考察したことをまとめます。 ・異文化理解における「文化と価値観」についての定義を学びます。	第7回で学習した内容を整理し、ノートにまとめて小テストに備えます。次の授業で扱う作家や作品について調べておきます。	4時間
第8回	**【小括】コミュニケーション・文化・価値の関係についての考察** ・第2～7回の授業内容を振り返り、「コミュニケーション・文化・価値」というテーマでプレゼンテーションを行います。	第８回で学習した内容を整理し、ノートにまとめて小テストに備えます。第８回で学んだことに基づいて、自分の分析を論述できるようにまとめておきます。	4時間
第9回	**言語・非言語的コミュニケーション①ー『ノッティングヒルの恋人』に見る非言語** ・『ノッティングヒルの恋人』についての予備知識を身につけるため、情報を集めます。 ・『ノッティングヒルの恋人』を聴解し、字幕と英語のスクリプトとの比較をして、相違を分析します。	第９回で学習した内容を整理し、ノートにまとめて小テストに備えます。次の授業で扱う作家や作品について調べておきます。	4時間

第10回	**言語・非言語的コミュニケーション②ー『ノッティングヒルの恋人』の考察** ・『ノッティングヒルの恋人』を聴解し、字幕と英語のスクリプトとの比較をして、相違を分析します。 ・『ノッティングヒルの恋人』におけるコミュニケーションの多様性について、イギリス人男性とアメリカ人女性のコミュニケーション・スタイルという観点から考察します。	第10回で学習した内容を整理し、ノートにまとめて小テストに備えます。第10回で学んだことに基づいて、自分の分析を論述できるようにまとめておきます。	4時間
第11回	**言語・非言語的コミュニケーション③ーコミュニケーションの多様性とは** ・『ノッティングヒルの恋人』におけるコミュニケーションの多様性について、イギリス人男性とアメリカ人女性の言葉遣いの相違という観点から考察したことをまとめます。 ・異文化理解における「言語・非言語的コミュニケーション」の定義を学びます。	第11回で学習した内容を整理し、ノートにまとめて小テストに備えます。次の授業で扱う作家や作品について調べておきます。	4時間
第12回	**言語・階級・ジェンダーー①ー『ローマの休日』に見る階級意識** ・『ローマの休日』についての予備知識を身につけるため、情報を集めます。 ・『ローマの休日』を聴解し、字幕と英語のスクリプトとの比較をして、相違を分析します。	第12回で学習した内容を整理し、ノートにまとめて小テストに備えます。第12回で学んだことに基づいて、自分の分析を論述できるようにまとめておきます。	4時間
第13回	**言語・階級・ジェンダーー②ー『ローマの休日』の考察** ・『ローマの休日』を聴解し、字幕と英語のスクリプトとの比較をして、相違を分析します。 ・『ローマの休日』における階級差からくる言葉遣いの差について、コミュニケーションスタイルの違いという観点から考察します。	第13回で学習した内容を整理し、ノートにまとめて小テストに備えます。自分のプレゼンテーションで扱う作家や作品について調べておきます。	4時間
第14回	**言語・階級・ジェンダーー③ーコミュニケーション・スタイルの違いとは** ・『ローマの休日』における階級からくる言葉遣いの差について、コミュニケーションスタイルの違いという観点から考察したことをまとめます。 ・異文化理解における「言語」「階級」「ジェンダー」の定義を学びます。	これまで学習した内容を整理し、ノートにまとめます。最終レポートの準備をします。	4時間

722

授業科目名	**異文化理解Ⅱ**				
担当教員名	麻畠 徳子				
学年・コース等	2回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「可」

授業概要

本科目では、前期科目「異文化理解 Ⅰ」に引き続き、グローバル社会を共生していくために必要な異文化理解力を培うことを目的とします。各授業では、英語圏の映像作品を題材として、その内容を理解するための背景知識を学習し、さらに英語と日本語の言語的、文化的違いを考察します。前期科目より難易度の高い題材－歴史的・文化的背景の知識がより求められる文脈依存度の高い題材―に取り組むことによって、更に高度な異文化理解力を身につけていくことを目的とします。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	日本語と英語の言語的相違への理解、異文化理解	英語と日本語との比較を通じて、双方の文化や表現の違いについて説明できる。
汎用的な力		
1. DP8.意思疎通		日本語と英語の文化の違いに基づいた表現の違いを理解し、適切な表現を用いて意見を述べることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
小テスト	20 %	： 毎回の授業の最初に、前回の授業の理解度を測る小テスト（参照可）を実施します。全体の平均点を評価の20%とします。
授業内課題	40 %	： 授業内課題として、複数回授業内容の理解に基づいた論述レポートを課し、その提出状況と内容への評価点をもとに、評価の40%とします。
プレゼンテーション	20 %	： 第14回目の授業に、自分で選択した英訳版の作品と原作との比較、分析をプレゼンし、その内容に応じて評価の20%とします。
期末レポート	20 %	： 14回授業後に、プレゼンテーションの内容に基づいて、自分で作品を選び論述する最終レポートを提出します。その結果を、評価の20%とします。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

SCREENPLAYシリーズ（名作英語完全セリフ音声集）
①『英国王のスピーチ』
②『食べて・祈って・恋をして』
③『ロミオ＆ジュリエット』

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜1限

場所： 研究室（西館5階）

備考・注意事項： メールアドレス：asahata@osaka-seikei.ac.jp

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、異文化理解と歴史的・文化的背景知識の重要性** ・授業の進め方や評価方法について確認します。 ・異文化理解のために必要となるものはなにかをグループで話し合います。	第1回で学習した内容を整理し、ノートにまとめて小テストに備えます。次の授業で扱う作家や作品について調べておきます。	4時間
第2回	**1920年代のイギリス①ー『英国王のスピーチ』に見る英国的性質** ・『英国王のスピーチ』についての予備知識を身につけるため、情報を集めます。 ・『英国王のスピーチ』を聴解し、字幕と英語のスクリプトとの比較をして、相違を分析します。	第2回で学習した内容を整理し、ノートにまとめて小テストに備えます。第2回で学んだことに基づいて、自分の分析を論述できるようにまとめておきます。	4時間
第3回	**1920年代のイギリス②ー『英国王のスピーチ』原作と映像作品の比較・分析** ・『英国王のスピーチ』を聴解し、字幕と英語のスクリプトとの比較をして、相違を分析します。 ・『英国王のスピーチ』原作を読解し、原作と映像化作品との比較をして、相違を分析します。	第3回で学習した内容を整理し、ノートにまとめて小テストに備えます。次の授業で扱う作家や作品について調べておきます。	4時間
第4回	**1920年代のイギリス③ー『英国王のスピーチ』における敬語・ユーモア・スピーチの作法** ・『英国王のスピーチ』を聴解し、字幕と英語のスクリプトとの比較をして、相違を分析します。 ・『英国王のスピーチ』原作を読解し、原作と映像化作品との比較をして、相違を分析します。 ・原作と映像化作品の言語的特徴について理解します。	第4回で学習した内容を整理し、ノートにまとめて小テストに備えます。第4回で学んだことに基づいて、自分の分析を論述できるようにまとめておきます。	4時間
第5回	**【小括】『英国王のスピーチ』における原作・映像化の相違についての考察** ・第2～4回の授業をつうじて考察したことをまとめます。 ・各自の考察をグループで話し合います。	第5回で学習した内容を整理し、ノートにまとめて小テストに備えます。次の授業で扱う作家や作品について調べておきます。	4時間
第6回	**2010年代のアメリカ①ー『食べて・祈って・恋をして』に見るアメリカ的性質** ・『食べて・祈って・恋をして』についての予備知識を身につけるため、情報を集めます。 ・『食べて・祈って・恋をして』を聴解し、字幕と英語のスクリプトとの比較をして、相違を分析します。	第6回で学習した内容を整理し、ノートにまとめて小テストに備えます。第6回で学んだことに基づいて、自分の分析を論述できるようにまとめておきます。	4時間
第7回	**2010年代のアメリカ②ー『食べて・祈って・恋をして』原作と映像作品の比較・分析** ・『食べて・祈って・恋をして』を聴解し、字幕と英語のスクリプトとの比較をして、相違を分析します。 ・『食べて・祈って・恋をして』原作を読解し、原作と映像化作品との比較をして、相違を分析します。	第7回で学習した内容を整理し、ノートにまとめて小テストに備えます。次の授業で扱う作家や作品について調べておきます。	4時間
第8回	**2010年代のアメリカ③ー『食べて・祈って・恋をして』における異文化表象** ・『食べて・祈って・恋をして』を聴解し、字幕と英語のスクリプトとの比較をして、相違を分析します。 ・『食べて・祈って・恋をして』原作を読解し、原作と映像化作品との比較をして、相違を分析します。 ・原作と映像化作品の言語的特徴について理解します。	第８回で学習した内容を整理し、ノートにまとめて小テストに備えます。第８回で学んだことに基づいて、自分の分析を論述できるようにまとめておきます。	4時間
第9回	**【小括】『食べて・祈って・恋をして』における原作・映像化の相違についての考察** ・第6～8回の授業をつうじて考察したことをまとめます。 ・各自の考察をグループで話し合います。	第９回で学習した内容を整理し、ノートにまとめて小テストに備えます。次の授業で扱う作家や作品について調べておきます。	4時間

第10回	**現代に蘇った古典①ー『ロミオ＆ジュリエット』に見る文化の新旧** ・『ロミオ＆ジュリエット』についての予備知識を身につけるため、情報を集めます。 ・『ロミオ＆ジュリエット』を聴解し、字幕と英語のスクリプトとの比較をして、相違を分析します。	第10回で学習した内容を整理し、ノートにまとめて小テストに備えます。第10回で学んだことに基づいて、自分の分析を論述できるようにまとめておきます。	4時間
第11回	**現代に蘇った古典②ー『ロミオ＆ジュリエット』原作と映像作品の比較・分析** ・『ロミオ＆ジュリエット』を聴解し、字幕と英語のスクリプトとの比較をして、相違を分析します。 ・『ロミオ＆ジュリエット』原作を読解し、原作と映像化作品との比較をして、相違を分析します。	第11回で学習した内容を整理し、ノートにまとめて小テストに備えます。次の授業で扱う作家や作品について調べておきます。	4時間
第12回	**現代に蘇った古典③ー『ロミオ＆ジュリエット』における原作とアダプテーション** ・『ロミオ＆ジュリエット』を聴解し、字幕と英語のスクリプトとの比較をして、相違を分析します。 ・『ロミオ＆ジュリエット』原作を読解し、原作と映像化作品との比較をして、相違を分析します。 ・原作と映像化作品の言語的特徴について理解します。	第12回で学習した内容を整理し、ノートにまとめて小テストに備えます。第12回で学んだことに基づいて、自分の分析を論述できるようにまとめておきます。	4時間
第13回	**【小括】『ロミオ＆ジュリエット』における原作・映像化の相違についての考察** ・第9～12回の授業をつうじて考察したことをまとめます。 ・各自の考察をグループで話し合います。	第13回で学習した内容を整理し、ノートにまとめて小テストに備えます。自分のプレゼンテーションで扱う作家や作品について調べておきます。	4時間
第14回	**3作品の比較・分析、プレゼンテーション** ・これまでの3作品を比較、分析し、その結果をまとめます。 ・プレゼンテーションの作法を学びます。 ・プレゼンテーションを実施します。	これまで学習した内容を整理し、ノートにまとめます。最後の期末レポートの準備をします。	4時間

722

授業科目名	**児童英語指導法Ⅲ**				
担当教員名	**工藤 律子**				
学年・コース等	2回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	私立幼稚園・小学校でのカリキュラム作成および英語指導。J-SHINEトレーナー。mpi小中英語指導者資格（上級英語指導者）（全１４回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

英語を取り巻く環境が大きく変わり、早期英語教育が注目されていますが、指導者を必要としているのは言うまでもありません。児童の英語指導は自身が英語を学ぶ上でも、必要なことが多くあります。この講義では、実践的な指導法（歌・絵本・チャンツを利用した指導法）を学びます。また、小学生への４技能指導について、模擬授業を通して実践力を身につけます。指導案は複雑なものではなく、モデル案にそって行います。この講座はあくまでも楽しく英語を子供に教えたいということが基本となります。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	様々な英語指導法について学ぶ。	児童英語指導において必要な知識を理解する。
2. DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	歌や絵本などを通した指導法を学ぶ。	多くの歌や絵本にふれ、指導実践を行う。
汎用的な力		
1. DP4.課題発見		模擬授業を通して課題を発見し、改善を行う。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「ー」(評価しない)とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への取り組み状況	10 %	： 講義に関するグループディスカッションへの積極的姿勢を評価する。
小レポート	30 %	： 英語指導法に必要な知識をまとめる。
期末レポート	30 %	： 第14回の授業後に歌・絵本・チャンツなどを利用した授業、レッスンプラン、フォニックスルールについてのレポートを行います。
模擬授業・発表・フィードバック	30 %	： 模擬授業・発表の内容を評価する。フィードバックのコメントを評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
小川隆夫・東仁美	・小学校英語　はじめる教科書　改訂版	・mpi	・2021　年
山下千里・岩本由美子	・子供のための英語で自己表現ワーク１	・mpi	・2008　年
酒井英樹等	・CrownJr５・６	・三省堂	・2020　年

参考文献等

「Songs and Chants 」「Brown Bear, Brown Bear, What do you see?」「英語で自己表現ワーク２・３」「This is phonics 1」「This　is Phonics 2」「小学校学習指導要領解説　外国語・外国語活動編」「We　Can１・２」
そのほかの参考文献は授業中に指示を出す。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後

場所：　授業の教室

備考・注意事項：　西館５５

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**中学年や高学年のそれぞれに適した様々な活動や題材の選定の仕方・教材開発の仕方／ICT活用の仕方（取り入れ方）①** 児童の興味・関心や他教科、国際理解教育、学校行事を理解し、それに会う教材や題材を考える。 学習への興味・関心を高めるICTの活用法を考え、その効果とメリットについて考える。	テキストを読み、理解すること	4時間
第２回	**単元構成・年間授業計画　演習／英語によるやりとりの仕方の指導（具体的事例）①** 教科書を元に、年間の授業計画、単元計画を立てる。児童がやり取りをする場面を想定し、ジェスチャーを交えた定型表現を理解する。	年間の授業計画・単元計画の見直し	4時間
第３回	**１時間の授業構成の仕方、指導案の作成法　演習／英語によるやりとりの仕方の指導　（発話の引き出し方）②** 教科書を元に、１時間の授業構成を作成し、指導案を作成する。モジュール型授業を体験する。英語のやりとりにおいて、指導者が児童をサポートしたり、児童同士がサポートし合えたりする環境を考える。	授業構成の見直し	4時間
第４回	**文字言語の与え方、読む活動、書く活動への導き方の理解／文字言語の与え方、読む活動、書く活動への導き方（具体的事例）　演習①** 文字提示のタイミング、音声で慣れ親しんだ単語などを文字で読むことにつなげる指導を理解する。「大文字・小文字」から基本的な表現を用いて自分のことや身近な事柄について書く指導を理解する。音と綴りの関係の指導を体験する。	具体的事例を理解し次の時間の指導案作成の資料作り	4時間
第５回	**文字言語の与え方、読む活動、書く活動への導き方（指導案作成と授業実演）　演習②／ICT活用の仕方（具体的事例）②** 音と綴りの関係の指導案を作成し、模擬授業を行い、互いにフィードバックを行う。 併設高校のICT活用事例を学ぶ。	指導案を再構成する	4時間
第６回	**文字言語の与え方、読む活動、書く活動への導き方（歌や絵本を利用）　演習③** 歌や絵本を選んで、「読むこと」「書くこと」の指導案を作成する。	指導案を再構成する	4時間
第７回	**文字言語の与え方、読む活動、書く活動への導き方（授業実演）　演習④** ６回で作成した指導案を元に模擬授業を行い、互いにフィードバックを行う。	指導案を再構成する	4時間
第８回	**歌・マザーグース・チャンツの指導（指導案作成）　演習①** 指導案を作成する。	指導案を再構成する	4時間
第９回	**歌・マザーグース・チャンツの指導（模擬授業）　演習②** ８回で作成した指導案を基に、模擬授業を行い、互いにフィードバックを行う。	指導案を再構成する	4時間
第10回	**絵本指導・読み聞かせ指導（指導案作成）演習①・指導講演** 児童英語指導者からの直接指導方法を聞き、それを基に指導案を作成する。	指導案を再構成する	4時間
第11回	**絵本指導・読み聞かせ指導（授業実演）　演習②** 第１０回で作成した指導案を基に、模擬授業を行い、互いにフィードバックを行う。	指導案を再構成する	4時間
第12回	**発表活動の指導（活動の体験）　演習①**	活動内容の復習	4時間

	Show&Tellを用いた活動を体験し、発表に対するコメントの練習を行う。		
第13回	**発表活動の指導（授業実演）　演習②** Show&Tellを用いた指導案を作成し、模擬授業を行い、互いにフィードバックを行う。	指導案を再構成する	4時間
第14回	**様々な評価の方法** 「小学校　学習指導要領」に示された、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に取り組む態度」と「パフォーマンス評価」を理解する。パフォーマンス評価がふさわしい単元を選び、パフォーマンス課題とルーブリックを作成し、発表を行い、互いにフィードバックを得る。	評価に関する考えをまとめる	4時間

722

授業科目名	**英語プレゼンテーション**				
担当教員名	工藤 律子				
学年・コース等	2回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	幼・小・中・高において、グラマー指導やコミュニケーションで必要な英語の指導を２０年行ってきました。また、カリキュラムの作成や１２年間一貫教育の内容にも携わってきました。				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

様々なプレゼンを通して、自分に合ったスキルを身につける授業です。プロジェクトを経験しながら、提案や説得ができる、あるいは、効果的に情報伝達ができる英語力も養います。少しずつ慣れていけるステップアップ方式で行います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	論理的思考力	母語を用いて論理的に考えをまとめることができる。
2. DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	言語・非言語を用いた効果的プレゼンテーション	自分の考えを他者へ適切に伝えることができる。
汎用的な力		
1. DP4.課題発見		様々な社会問題をテーマとして、何が課題であり、またその課題をどのように解決できるかを考える。
2. DP9.役割理解・連携行動		異なる価値観を尊重する姿勢を持ち、他者と協力して自らの学びを深めることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
発表	40 %	： 授業内でプレゼンを実施し、内容とプレゼンのスキルを評価する。
レポート	20 %	： 授業の中でレポートの形式は説明する。授業で話し合った内容や、または与えられたトピックに関する自分の意見をレポートとして提出してもらう。
授業への貢献度	20 %	： ディスカッションやグループワークの姿勢を評価する。
期末レポート	20 %	： 第14回の授業後に、日英両方のレポートを課す。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Noboru Matsuoka, Hiroko Miyake etc	・Presentations to Go	・Cengage Learning	・2014　年

参考文献等

その他の参考文献等は授業中に指示を出す。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

備考・注意事項： 授業に関する質問が多い場合は、事前にメール（kudoh-r@osaka-seikei.ac.jp)を送ること。メールには氏名と所属を明記すること。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**プレゼンテーションリテラシー** プレゼンテーションの基礎を学ぶ	必要なスキルを理解し、口頭試問に備える。	4時間
第2回	**自己紹介で自分をアピールする　知識編** 自己紹介を英語で行うことができる。自分の過去、現在、将来について英語で述べることができる。自分の興味、性格、長所、短所について英語で説明できる。自分に関する英語の語彙、表現に慣れる。内容と時間からプレゼンテーションを適切に構成することができる。次回の発表の準備を行う。	次回の発表に備えて準備する。	4時間
第3回	**自己紹介で自分をアピールする　発表編** プレゼン準備後、発表をし、お互いフィードバックを与え、自己評価する。	評価シートを見て、自分の課題を書きあげ、解決策を書く。	4時間
第4回	**News Digest　知識編** 事実を客観的に英語で述べることができる。ニュースをrewrite し伝えることで、ニュース英語の語彙や表現に主体的に親しむ。国内、海外、芸能・スポーツ、自分の大学のニュースを英語で伝える。グループとして、それぞれの項目を英語でまとめ、つなげる。	次回の発表に備えて準備する。	4時間
第5回	**News Digest 発表編** プレゼン準備後、発表をし、お互いフィードバックを与え、自己評価する。	評価シートを見て、自分の課題を書きあげ、解決策を書く。	4時間
第6回	**promoting vacation plan　知識・ディスカッション編** 自分たちの企画を英語で推し進め、企画のためのリサーチを英語で行う。プロモーション（説得）のための英語の語彙や表現に慣れる。グループでまとまった内容を英語で伝える。	ディスカッションした内容をまとめる。	4時間
第7回	**promoting vacation plan　作成編** バケーションプランを各自でまとめ、PPで表現する。また、グループで発表の練習を行う。	次回の発表に備えて準備する。	4時間
第8回	**promoting vacation plan 発表編** プレゼン準備後、発表をし、お互いフィードバックを与え、自己評価する。	評価シートを見て、自分の課題を書きあげ、解決策を書く。	4時間
第9回	**Introducing Japan　知識・ディスカッション編** 日本の魅力を海外に英語で伝えるためのリサーチを英語で行い、「 日本」を説明する語彙や表現に慣れる。	話し合った内容をしっかりとまとめる。	4時間
第10回	**Introducing Japan　作成編** 日本の魅力を各自でまとめ、PPを用いて発表する準備する。発表に向けた練習をグループで行う。	次回の発表に備えて準備する。	4時間
第11回	**Introducing Japan 発表編** プレゼン準備後、発表をし、お互いフィードバックを与え、自己評価する。	評価シートを見て、自分の課題を書きあげ、解決策を書く。	4時間
第12回	**Discussing Social Issues　知識・ディスカション編（海外の問題）** 様々な社会問題について考える。特に、海外の問題い携わっている団体とセッションを行い、その問題にどのように向き合い対処しているのか、講演を聞く。 問題についてのリサーチを英語で行い、社会問題を議論する英語の語彙、表現に慣れる。 グラフを英語で説明し、グループでまとまった議論の展開を英語で行う。	将来についてのスピーチを準備する。	4時間

第13回	**Talking About Your Futre Plan / Discussing Social Issues　作成編** 自分の将来について、決められた時間内で英語で話す。また、内容に関する質疑応答に答える。 第14回のプレゼンについてグループでディスカッションした内容をPPを用いてまとめる。	次回の発表に備えて準備する。	4時間
第14回	**Discussion　Social　Issues　発表編** 発表をし、お互いフィードバックを与え、自己評価する。	評価シートを見て、自分の課題を書きあげ、解決策を書く。	4時間

722

授業科目名	**日本語ライティング**				
担当教員名	白瀬 浩司				
学年・コース等	2回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

単位レポート（研究レポート）の書き方については１年次に複数の講座で学んできたはずですが、十分に活かされていないように見受けられます。それに、２年次後期には「卒業研究」が控えています。
本講座では、夏目漱石『夢十夜』を対象に、１作品の選定、２資料・先行研究の探索、３収集資料の読み込み（研究ノートづくり）、５テーマの焦点化、６論文の構造と書式の確認、７論文執筆（草稿）、８中間発表、９論文推敲、10論文完成という過程を実際に体験しつつ、レポートを１本（1600字）執筆・完成させます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2.専門的知識・技能、職業理解	研究レポート執筆のための、資料探索・先行研究整理・課題発見・論述という一連の過程について理解する。	研究レポートの完成過程を理解することができる。
2. DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	探索および整理の後、発見した課題について的確な表現を選びながらレポートを執筆する。	2400字の研究レポートを実際に執筆することができる。
汎用的な力		
1. DP4.課題発見		対象を正しく理解した上で、そこに内包される課題を見出すことができる。
2. DP5.計画・立案力		理解した対象について、表現するための行程を考えることができる。
3. DP7.完遂		自身が立案した行程にしたがい、レポートを執筆することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
ワークシート	30 %	： 各回に提出するワークシートの記述により、よく理解できている＝2点、概ね理解できている＝1点、十分に理解できていない＝0点とします。
報告	20 %	： 執筆した草稿の報告・質疑応答を、ひとり15分程度実施します。聞き手は評価票を記入します。なお、評価基準については評価票に明示します。
受講態度	20 %	： 各回の授業への参加態度（発言・グループ討議）、課題への取り組み姿勢、授業資料の整理状況により、評価します。
最終課題（期末レポート）	30 %	： 論題に対する理解と、記述内容により評価します。なお、基本的な文章スキルにかかわる減点項目については、講義時に提示します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
夏目漱石（作）、しきみ（絵）	・ 夢十夜	・ 立東舎	・ 2018　年

参考文献等

今野雅方『考える力をつける論文教室』（ちくまプリマー新書）【ISBN 978-4-480-68861-3】
東郷雄二『新版　文化系必修研究生活術』（ちくま学芸文庫）【ISBN 978-4-480-09205-2】

履修上の注意・備考・メッセージ

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がない場合、最終レポートの提出がない場合は放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜３限

場所： 西館５階（図書館横）57研究室

備考・注意事項： その他連絡をとりたい場合はEメールで（アドレス：shirase@g.osaka-seikei.ac.jp）。なお、Eメールには氏名と学籍番号を必ず入れること。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**夏目漱石の作品世界―作家の伝記的事実と作品事例・第一夜を読み解く―** 第１回からすぐに演習に入るので、登録者は必ず出席すること。 高校時代に国語の授業で『こゝろ』に出会った人も多いだろう。本時は、作家・夏目漱石の年譜を踏まえた上で、『夢十夜』に収載された「第一夜」の読解に取り組み、本講座で対象とする彼の作品世界の雰囲気を捉えていく。	テキスト『夢十夜』の中から自分がレポートの対象とする作品を１つ選定しておく。	4時間
第2回	**『夢十夜』の方法―第二夜「和尚の室を退がって、廊下伝いに自分の部屋へ帰ると…」を読み解く―** 『夢十夜』の語りの方法について、「第二夜」を読み進めながら、物語要素を分析する形で確認作業を行う。	自分がレポートの対象として選定した作品を読み込んでおく。	4時間
第3回	**『夢十夜』の構造―第三夜「六つになる子供を負ってる。たしかに自分の子である…」／文献・資料検索の仕方―** 第１・２回に続き、『夢十夜』の作品世界が持つ特有な雰囲気について、「第三夜」を対象として捉えていく。また、インターネットを用いた資料・文献検索の仕方について再確認するとともに、第１～２回の授業外学修課題のうち、自身がレポートで扱う作品を１つに絞り、先行研究などのリスト作成の準備をする。さらに、選定作品（第六夜～第十夜）に基づき、作業グループを決定する。	自分が選んだ作品の先行研究・文献資料リストを指定書式で作成し、次時までに収集する。	4時間
第4回	**グループ討議（1）―先行研究・文献共有リスト作成／作家・作品に関する調査分担―** 各グループで先行研究を提示し合い、共有リストを作成する。また、作品理解のため、調査すべき項目をグループで討議し、決定する。例えば、作品の舞台となった地誌・背景となっている事柄・登場人物のモデルとされる人物など。	グループにおける分担にしたがい、調査・資料収集を行う。	4時間
第5回	**グループ討議（2）―選定作品の粗筋・読解上の問題点の整理―** 前時に分担した調査事項について報告し合う。また、作品を読み解く上で注目すべきポイントや疑問点などについて討議する。討議後、各自でワークシートに選定作品の粗筋を800字程度でまとめ、自身の論文の構想メモを書いて提出する。次時の報告に備え、一人１つずつ先行研究の報告分担を決定する。研究ノートの作り方についても確認する。	次時の報告に備え、担当した先行研究を読み込み、１枚のレジュメにまとめる。	4時間
第6回	**グループ討議（3）―先行研究の内容に関する報告―** 各自が用意したレジュメをもとに、先行研究の内容について報告し合う。各自、ワークシートに共有した内容についてまとめ、提出する。	第9回からの研究レポート執筆に備え、各自、先行研究に目を通しておく。	4時間
第7回	**第四夜「広い土間の真中に涼み台のようなものを据えて…」を読み解く** 第３回に続き、『夢十夜』の作品世界が持つ特有な雰囲気について、「第四夜」を対象として捉えていく。また、１年次に既習の研究レポートの書き方全般について再確認する。	第9回からの研究レポート執筆に備え、各自、構想メモの見直しを行う。	4時間
第8回	**第五夜「何でもよほど古い事で、神代に近い昔と思われるが…」を読み解く** 第７回に引き続き、『夢十夜』の作品世界が持つ特有な雰囲気について、「第五夜」を対象として捉えていく。また、研究レポートの書き方のうち、レポートのねらい・先行研究の書き方について確認する。	次時の研究レポート執筆に備え、先行研究の整理・構想メモの再確認を行う。	4時間
第9回	**研究レポート執筆（1）―【序論】草稿をまとめる―** 研究レポートの【序論】を書き進める。疑問の生じた場合は、グループでの相談、授業担当者との相談を、適宜、行いながら執筆する。	序論が仕上がっていない場合は、次時までに完成させる。	4時間
第10回	**研究レポート執筆（2）―【本論】草稿をまとめる―** 研究レポートの【本論】を書き進める。疑問の生じた場合は、グループでの相談、授業担当者との相談を、適宜、行いながら執筆する。	本論が仕上がっていない場合は、次時までに完成させる。	4時間

第11回	**研究レポート執筆（3）―【結論】草稿をまとめる―** 研究レポートの【結論】を書き進める。疑問の生じた場合は、グループでの相談、授業担当者との相談を、適宜、行いながら執筆する。	結論が仕上がっていない場合は、次時までに完成させる。次時の報告担当者は、報告の準備をする。	4時間
第12回	**中間報告（1）―「第六夜」「第七夜」「第八夜」担当者―** 執筆した草稿を元に、「第六夜」「第七夜」「第八夜」の担当者が、それぞれ15分程度の中間報告・質疑応答を行う。	報告者は、本時の討議を踏まえてレポートの改稿をする。次時の報告担当者は、報告の準備をする。	4時間
第13回	**中間報告（2）―「第九夜」「第十夜」担当者―** 執筆した草稿を元に、「第九夜」「第十夜」の担当者が、それぞれ15分程度の中間報告・質疑応答を行う。	報告者は、本時の討議を踏まえてレポートの改稿をする。次時の報告担当者は、報告の準備をする。	4時間
第14回	**全体のまとめと最終課題（期末レポート）の確認** 文学作品を読み解くということ、研究レポートをまとめるということについて、これまでの取り組みを振り返りながら、グループで達成点や反省点について討議する。また、定期試験期間中に提出する最終レポートの書式等について告知・確認する。	最終課題（期末レポート）の提出に向け、草稿に手を入れつつレポートを完成させる。	4時間

722

授業科目名	**日本の古典文学**				
担当教員名	白瀬 浩司				
学年・コース等	2回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本講座では、小泉八雲ことラフカディオ・ハーンの著作『怪談・奇談』（現代語で書かれたものです）を講読し、日本の古典文学に対する理解を深めていきます。ただし、この著作に収められた物語は、素材の多くが日本の古典作品なのですが、そこに《外国人であるハーンの眼》というフィルターの介在する、作家ハーンの作品世界でもあります。したがって、《外国人の眼というフィルターを通して私たちの古典作品に出会い直す》というのが、本講座の取り組みとなってきます。最初の４作品については、映像作品も併せて視聴しますので、古典時代の文化・生活習俗（衣・食・住など）についても視覚的に理解できるはずです。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	日本の古典文化について知ることや、〈怪談・奇談〉の作品世界について理解すること。	時代的（当代的）な要素を踏まえ、日本古典の内容について理解することができる。
汎用的な力		
1. DP4.課題発見		古典の表現や文化的背景を通し、現代の文化や事象の捉え返しと課題を見出すことができる。
2. DP8.意思疎通		現代の文化とは異質な古典の文化を踏まえた上で、そこに記された古人の思いを理解することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
ワークシート	40 %	： 各回の授業後に提出するワークシートの記述により、よく理解できている＝3点、概ね理解できている＝2～1点とします。
報告	20 %	： テーマを決めた上で、個人・グループによる報告を１回～３回実施します。
受講態度	10 %	： 各回の授業への参加態度（発言・グループ討議）、課題への取り組み姿勢、授業資料の整理状況（ファイル提出）により、評価します。
定期試験（期末レポート）	30 %	： 設問に対する理解と、記述内容により評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
ラフカディオ・ハーン	・ 角川文庫『怪談・奇談』	・ KADOKAWA	・ 1956 年

参考文献等

必要に応じ、講義時に指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜３限

場所：　西館５階（図書館横）57研究室

備考・注意事項：　その他連絡をとりたい場合はEメールで（アドレス：shirase@g.osaka-seikei.ac.jp）。なお、Eメールには氏名と学籍番号を必ず入れること。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ラフカディオ・ハーン（小泉八雲）の基礎知識** ラフカディオ・ハーンの伝記資料を確認するとともに、さまざまな時代を舞台として彼が聞き取り描き留めた作品世界の概略について学修します。	本時に配布したプリントに目を通し、次時に取り上げる作品『和解』についてリサーチしておく。	4時間
第2回	**『和解』の作品世界を読み解く** 『和解』を通読し、物語当時の習俗（衣類、食事、家屋など）を踏まえつつ、作品世界を読み解いていきます。	本時に配布したプリントに目を通し、映像作品視聴に備え、『和解』を読み返しておく。	4時間
第3回	**映画『和解』により作品世界の理解を深める** 短編の映像作品である『和解』を視聴し、当時の習俗（衣類、食事、家屋など）について視覚的に理解するとともに、前時に捉えた作品世界を読み深めていきます。	本時に配布したプリントに目を通し、次時に取り上げる『雪女』についてリサーチしておく。	4時間
第4回	**『雪おんな』の作品世界を読み解く** 『雪おんな』を通読し、物語当時の習俗（衣類、食事、家屋など）を踏まえつつ、作品世界を読み解いていきます。	本時に配布したプリントに目を通し、映像作品視聴に備え、『雪おんな』を読み返しておく。	4時間
第5回	**映画『雪おんな』により作品世界の理解を深める** 短編の映像作品『雪おんな』を視聴し、当時の習俗（衣類、食事、家屋など）について視覚的に理解するとともに、前時に捉えた作品世界を読み深めていきます。	本時に配布したプリントに目を通し、次時に取り上げる『耳なし芳一のはなし』についてリサーチしておく。	4時間
第6回	**『耳なし芳一のはなし』の作品世界を読み解く** 『耳なし芳一のはなし』を通読し、物語当時の習俗（衣類、食事、家屋など）を踏まえつつ、作品世界を読み解いていきます。	本時に配布したプリントに目を通し、映像作品視聴に備え、『耳なし芳一のはなし』を読み返しておく。	4時間
第7回	**映画『耳なし芳一のはなし』により作品世界の理解を深める** 短編の映像作品『耳なし芳一のはなし』を視聴し、当時の習俗（衣類、食事、家屋など）について視覚的に理解するとともに、前時に捉えた作品世界を読み深めていきます。	本時に配布したプリントに目を通し、次時に取り上げる『茶碗の中』についてリサーチしておく。	4時間
第8回	**『茶碗の中』の作品世界を読み解く** 『茶碗の中』を通読し、物語当時の習俗（衣類、食事、家屋など）を踏まえつつ、作品世界を読み解いていきます。	本時に配布したプリントに目を通し、映像作品視聴に備え、『茶碗の中』を読み返しておく。	4時間
第9回	**映画『茶碗の中』により作品世界の理解を深める** 短編の映像作品『茶碗の中』を視聴し、当時の習俗（衣類、食事、家屋など）について視覚的に理解するとともに、前時に捉えた作品世界を読み深めていきます。	本時に配布したプリントに目を通し、『茶碗の中』について再確認する。	4時間
第10回	**報告のための討議と準備作業に取り組む** 各自で報告を担当する作品の分担を行い、次時以降の報告に備えて個別討議とパワーポイントや資料作成の作業に取り組みます。	報告担当者はリハーサルを行い、他の受講者は次時に取り上げる作品に目を通しておく。	4時間
第11回	**個人報告①『おしどり』『むじな』『ろくろ首』の作品読解** 『おしどり』『むじな』『ろくろ首』を通読し、個々の報告を聴きながら、物語当時の習俗（衣類、食事、家屋など）を踏まえて作品世界を読み解いていきます。	報告担当者はリハーサルを行い、他の受講者は次時に取り上げる作品に目を通しておく。	4時間
第12回	**個人報告②『死人が帰って来たはなし』『振袖』『約束』の作品読解** 『死人が帰って来たはなし』『振袖』『約束』を通読し、グループの報告を聴きながら、物語当時の習俗（衣類、食事、家屋など）を踏まえて作品世界を読み解いていきます。	報告担当者はリハーサルを行い、他の受講者は次時に取り上げる作品に目を通しておく。	4時間
第13回	**個人報告③『衝立の乙女』『閻魔の庁にて』『生霊』の作品読解**	これまでの学修を振り返り、ワークシートと作品本文を読み返しておく。	4時間

	『衝立の乙女』『閻魔の庁にて』『生霊』を通読し、グループの報告を聴きながら、物語当時の習俗（衣類、食事、家屋など）を踏まえて作品世界を読み解いていきます。		
第14回	**討議・日本の古典文化（物語）について** 本講座での学修を振り返り、日本の古典文化の特色についてグループ討議に取り組みます。討議内容について、それぞれ10分程度のプレゼンテーションにより全体で共有することになります。	本時に提示されたテーマに基づき、定期試験の準備に取り組む。	4時間

722

授業科目名	グローバルコミュニケーション演習				
担当教員名	浅野 法子				
学年・コース等	2回生	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本授業では、地域研究の視点から文化研究を試みます。テーマを「大阪」と「京都」し、風土と自然、歴史、文化の３つの観点から、これら２都市の今を考えます。後半は、大阪や京都が舞台となった文学作品や映画等に投影された時代背景や舞台等の調査をし、それらの言説空間に着目します。それらに描き出された都市空間を考察することで、物語の構造を分析します。
また、プレゼンテーションの方法やレポートの表現を学ぶために、文章の要約や文章での主張の方法といった学びの作法の習得を目指します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	文学作品研究。	文学作品を分析できる。
汎用的な力		
1. DP4.課題発見		文学作品をクリティカルに分析できる。
2. DP7.完遂		自ら課題を発見し、情報収集・分析し、発表することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

フィールドワーク実施の回には自宅から京都までの交通費が発生します。

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「-」とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
プレゼンテーション	30 %	： 内容の妥当性と論理的構成について、独自のルーブリックに基づいて評価します。
レポート	30 %	： 内容の妥当性と論理的構成について、独自のルーブリックに基づいて評価します。
提出物（メモ）	30 %	： 毎回の授業で振り返りメモの提出を課します。授業内容を理解し、自分で考えられていれば、2-3ポイント、理解不足は1ポイント。
受講態度	10 %	： 授業に積極的に参加し、課題に取り組む態度を評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

プリントを配布します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回１時間の授業外学修が求められる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜３限

場所： 研究室（西館5階）

備考・注意事項： 授業の前後にも質問に応じます。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**授業ガイダンス・大学で学ぶにあたっての基礎的な力を身につける** ・演習形式の説明とこれからの取り組み方について ・課題への取り組み方として、情報収集、調査方法、分析の仕方、発表形式について学ぶ。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第2回	**大阪と京都の風土と自然** ・大阪と京都の地形や気候からみた特徴を知る ・グループで情報を共有する ・情報収集や文献読解の方法を学ぶ	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第3回	**大阪と京都の歴史** ・大阪の歴史を知る ・グループで情報を共有する ・情報収集や文献読解の方法を学ぶ	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第4回	**大阪の文化** ・大阪の文化の特徴を知る ・グループで情報を共有する ・情報収集や文献読解の方法を学ぶ	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第5回	**大阪と京都の現在** ・大阪と京都の今を知る ・グループで情報を共有する ・情報収集や文献読解の方法を学ぶ	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第6回	**フィールドワーク事前学習・レポートの作成方法を学ぶ①主題と根拠** ・京都でのフィールドワークの準備をする ・主題を絞り込む ・主題とは何か――学問的な問いの立て方を学ぶ ・「根拠のないことは書かない」ことを学ぶ	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第7回	**フィールドワーク①インターナショナルスクール見学** ・小学校での英語教育を見学する	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第8回	**フィールドワーク②観光地としての京都** ・京都のまちをフィールドワークで探究する ・古都としての京都を知る ・京都のインバウンド需要を知る	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第9回	**フィールドワーク事後学習** ・フィールドワークで知りえた知見をまとめて発表する ・発表を通してクラスで情報共有をし、京都というまちについて考える	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第10回	**レポートの作成方法を学ぶ②事実と意見・読みやすい文章について** ・事実と意見の書き方を学ぶ ・読みやすい文章の書き方を学ぶ	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第11回	**レポートの作成方法を学ぶ③引用文献・参考文献** ・なぜ、引用をするのか ・引用文献と参考文献の処理について ・研究倫理教育実施	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第12回	**プレゼンテーションの方法について学ぶ** ・効果的なプレゼンテーションの方法について知る ・発表のテーマを決める	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第13回	**プレゼンテーションの準備** ・課題のテーマを深める ・発表に向けて準備する	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間

第14回	**まとめ：大阪と京都について考える** ・プレゼンテーションについて、ピア評価を実施する ・半期の授業を振り返り、大阪のイメージについて考える	振り返りシートの作成、およびこれまでのまとめをしておく	1時間

722

授業科目名	**卒業研究**				
担当教員名	**浅野 法子**				
学年・コース等	2回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本授業では、2年間の学びの集大成として、卒業論文の制作に取り組みます。まずは、学術的な問いから自分の興味・関心に基づいたテーマを決定します。その後、大阪や日本、海外の歴史や風土、自然、文化、文学文芸等をキーワードに、個人で課題を探して調査を進めます。日本文化の探求を深め、異文化の視点から欧米文化と比較した日本文化を「発見」することを試みます。

演習形式で授業を進め、グループの課題と個人の課題を見つけて発表に取り組みます。最終課題は、調査結果を卒業研究として文章にまとめます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	大阪を事例とした文化研究。	周辺文化を客観的に分析できる。
汎用的な力		
1. DP4.課題発見		文学作品や周辺文化をクリティカルに分析できる。
2. DP7.完遂		自ら課題を発見し、情報収集・分析し、発表することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「ー」(評価しない)とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
プレゼンテーション	10 %	： 内容の妥当性と論理的構成について、全学ルーブリックに基づいて評価します。
試験（論文）	30 %	： 内容の妥当性と論理的構成について、全学ルーブリックに基づいて評価します。
提出物（メモ・小課題）	42 %	： 毎回の授業で振り返りメモの提出を課します。授業内容を理解し、自分で考えられていれば、3ポイント。
提出物（小課題）	18 %	： ３回の小課題の提出を課します。内容に対する評価とともに、授業に積極的に参加して課題に取り組む態度も加味して評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

必要に応じ、授業時に紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜3限

場所：　研究室（西館5階）

備考・注意事項：　その他連絡をとりたい場合はEメールで（アドレスは第１回目の授業で提示する）。Eメールには氏名と学籍番号を必ず入れること。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**授業ガイダンス—授業の進め方、課題、評価について—** 前期の関連講座において各自が選定した研究テーマについて、全体の構成や作業の手順、完成までの見通し（執筆計画）などをワークシートにまとめる。	振り返りシートの作成。次回の課題プリントを通読する。	4時間
第2回	**研究テーマの検討** 前時に提出したワークシートに基づき、一人ひとりテーマに関するショートプレゼンを実施する。受講者および講座担当者の意見を聴き取りながら、テーマの妥当性および論としての成立が可能かどうかについて検討を行う。	振り返りシートの作成。次回の課題プリントを通読する。	4時間
第3回	**資料収集とリスト作成** 資料収集とリストの作成を行う。 ・検索サイトを用いて、各自のテーマの先行研究を収集する。 ・文献の注記の仕方にしたがい、ワークシートに先行研究リストをまとめる。	振り返りシートの作成。資料を収集する。	4時間
第4回	**文献調査と研究テーマの再検討／論文の書き方を学ぶ①三部構成について** 序論、本論、結論といった三部構成を学ぶ。 ・持参した複数の文献を読み、気づいたことや感じたことをワークシートにまとめる。 ・自身の選定した研究テーマが学術的な問いとなっているか、チェック項目にしたがいつつ再検討する。 ・テーマが確定したところで、第一章の執筆に取り組む。	第一章草稿を執筆し、期日までにclassroomより提出する。	4時間
第5回	**先行研究の読み進めと、研究ノート作成／論文の書き方を学ぶ②引用と注記の仕方** 第一章は全編が完成した後に変更の必要が生じるが、現時点で朱筆チェックされた第一章草稿の返却と担当者からのアドバイスを受ける。 ・引用文献の処理について学ぶ。 　書籍、雑誌、インターネットの情報の処理方法、短文の場合と長文の場合など。 ・文献の読み進めを継続し、研究ノート（ワークシート使用）にまとめる。 ・卒論で使用する主要先行文献を絞り込む。	資料を収集するとともに、主要文献の絞り込みを進める。	4時間
第6回	**資料（先行研究）の読み込みと第二章第一節の執筆** ・研究ノート（ワークシート使用）にメモを取りながら資料を読み進める。 ・資料を読み終えたところで、追加資料の要否について検討する。 ・第二章第一節の草稿執筆に取り組む。	第二章第一節の草稿を執筆し、期日までにclassroomより提出する。	4時間
第7回	**草稿（第二章第一節）に対する個別指導と第二章第二節の執筆** ・朱筆チェックした第二章第一節の草稿を返却するとともに、担当者による個別指導を実施する。 ・第二章第二節の執筆方針を報告し、草稿の執筆に取り組む。	第二章第二節の草稿を執筆し、期日までにclassroomより提出する。	4時間
第8回	**草稿（第二章第二節）に対する個別指導と第二章第三節の執筆** ・朱筆チェックした第二章第二節の草稿を返却するとともに、担当者による個別指導を実施する。 ・第二章第三節の執筆方針を報告し、草稿執筆に取り組む。	第二章第三節の草稿を執筆し、期日までにclassroomより提出する。	4時間
第9回	**草稿（第二章第三節）に対する個別指導と中間発表準備** この時点で各自の研究の全容が見えてくるので、研究の妥当性や過不足のある点などについて担当者のアドバイスを得つつ再検討することになる。 ・朱筆チェックした第二章第三節の草稿を返却するとともに、担当者による個別指導を実施する。 ・論点の追加や視点の切り替えなど、担当者のアドバイスを得た上で中間発表のスライド作成に取り組む。	中間発表のスライドを作成し、期日までにclassroomより提出する。	4時間
第10回	**中間発表** ・自分のテーマについて中間発表を行う。 ・他の受講生の発表を聞き、それぞれの良かった部分について検証する。	振り返りシートの作成。発表時の指摘等を踏まえ、第二章の加筆・修正を行う。	4時間

第11回	**第二章（第一節～第三節）の加筆・修正作業** 前時の発表の際に得た質問や指摘、および自身の気づいた不十分点や新たな視点などを踏まえ、担当者に相談しつつ第二章の加筆・修正作業に取り組む。	第二章（第一節～第三節）の執筆を進める。	4時間
第12回	**第二章（第一節～第三節）の完成稿の執筆** 前時および課外での加筆・修正作業を受け、第二章の完成稿の執筆に取り組む。 ・時間内に仕上がった場合は、担当者の朱筆チェックとアドバイスを受ける。	第二章の完成稿を執筆し、期日までにclassroomより提出する。	4時間
第13回	**第三章の執筆と第一章の改稿** 朱筆チェックした第二章の完成稿を返却するとともに、担当者による個別指導を実施する。 第三章執筆の後、第二章以降の論展開に沿うように第一章の改稿を行う。 ・第三章の執筆に取り組む。 ・第一章の加筆・修正に取り組む。	第三章および第一章の完成稿を執筆し、期日までにclassroomより提出する。	4時間
第14回	**卒論要約の執筆** 朱筆チェックした第三章および第一章の完成稿を返却するとともに、担当者による個別指導を実施する。 ・要約執筆＝卒論の内容について規定字数で簡潔にまとめる。 ・卒論の提出書式の再確認を行う。	卒論要約を期日までにclassroomより提出する。卒論書式に従い、卒論の清書を期日に提出する。	4時間

722

授業科目名	**舞台表現演習**				
担当教員名	美月 亜優				
学年・コース等	2回生	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	宝塚音楽学校卒業後、宝塚歌劇団入団数々の舞台に出演。様々な役柄を演じると共に、歌、ダンス、日舞取得。退団後、舞台、映画、TV,ラジオでの出演。ダンスインストラクターとして講師も務める。日舞は花柳君乃安の名取取得。（全14回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

2年間のまとめ。舞台パフォーマンスで培った基本をベースに、もっともっと芝居を掘り下げていきます。覚えこみ、成りきる作業をして、本格的に演じる作業をしていきます。芝居は現実とは違うので、キャラクターを演じるということは、自分自身と異なるものを作り上げていくので、不自然な動きや所作になることもあり、そうなると違和感を感じます。役作りをしていく上で、キャラクター特有の所作、動作、仕草などを、事細かく考え、計算し、感情も流れるように繋げて動かなくてはなりません。そして自分と一体化させます。いかに自然に動けるかが、上手く演じるうえでは大事なことなのです。細かく作り込むことで、様々な感情についても、あらゆる人間性についても学んでいくので、人間そのものを考えることになります。そして魅力的な人間に、成長していける糧になればと思っています。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2.専門的知識・技能、職業理解	歌、ダンス、芝居	五感の向上と、自覚を持ち進むことができる。 五感の向上と自覚。
汎用的な力		
1. DP6.行動・実践		自分自身のキャラクターについて考えることができる。
2. DP9.役割理解・連携行動		相手を思いやりながら、芝居をすることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」(評価しない)とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内課題	50 %	： 毎回の課題をどれだけ理解し、演じようとしているか。
授業態度	30 %	： 挨拶、マナー等守られているか。他の人の実演もマナー良く見学しているか。積極的に参加しているか。
試験（発表）	20 %	： どれだけ読解力をもって挑んでいるか。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業中に指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

備考・注意事項： 授業の前後に質問に応じます。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**本読み：読み合わせ** 自分の役について考え台詞を覚える作業をする。	それぞれの役について掘り下げ考える。台詞回しの反復練習をする。	4時間
第2回	**立ち稽古：すべてのキャラクターについて把握する** 場面ごとに立ち振る舞いを決めていく。	台詞回しの反復練習をし、体に叩き込む。自分の役をもっともっと掘り下げる。	4時間
第3回	**立ち稽古：自分と関わるキャラクターとの距離感を考える** 相手との距離感を測り、相手が絡みやすい方法で自分の立ち振る舞いを考える。	台詞回しの反復練習をし、よりキャラクターが鮮明に演じられるように考える	4時間
第4回	**立ち稽古：より細かく動作をきめていく** とにかく不自然さの動作がなくなるようにチェックしていく。同時に役を掘り下げる。	台詞の反復練習をする。	4時間
第5回	**荒通し稽古、抜き稽古** 一度無理矢理芝居を最初から最後まで通してみる。大まかな動きを把握する。気になる場面をピンポイントで抜き稽古をする。	台詞立ち振る舞いの反復練習をする。	4時間
第6回	**抜き稽古：動きと感情繋ぎをチェックする** 自然な動き、自然な感情表現出来るよう事細かにチェックしていく。	台詞立ち振る舞いの反復練習。役作りをもっと掘り下げる。	4時間
第7回	**ショー振り付け** 歌いながら、踊る振り付けをする。	歌を覚える。振りを覚える。	4時間
第8回	**振り付け：続きとクリーンアップ** 手の先から顔の方向、表情に至るまで事細かにチェックして、みんなで揃えていく。体全体で表現する。	クリーンアップしたところを思い出し、歌、ダンスの練習をする。	4時間
第9回	**振り付け：続きとクリーンアップと歌稽古** 歌とダンスの反復練習。揃える作業を何度も繰り返し、体と頭に叩き込む。	歌とダンスの反復練習。芝居も思い出す。	4時間
第10回	**芝居とショー通し** 荒々通し。の前に思い出し稽古。そして本番のように通す。その後ダメ出し。	ダメ出しされたところを思い出し反復練習。	4時間
第11回	**荒通し** 本番と同じように通す。その後ダメ出し。抜き稽古。	ダメ出しされたところを思い出し反復練習。	4時間
第12回	**本通し** 本番と同じように通す。本番一発に集中し、すべて出し切り成功させる。その後反省会。	自分自身に問いただし、本番の出来を自分で評価する。	4時間
第13回	**反省会と講習会** 舞台に　携わる上での講習会。所作、着付け、メイク等を体験してもらい、舞台スキルをアップします。	反復練習。	4時間
第14回	**まとめ：2年間を振り返る。** 課題演目を演じてもらいます。	授業内容を振り返る。これからの社会生活において、積極性があり、心優しく心豊かで、素敵な笑顔で、みんなに愛される人生を、歩んでいって欲しいです。	4時間

722

授業科目名	**舞台パフォーマンスⅢ**				
担当教員名	**美月 亜優**				
学年・コース等	2回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	宝塚音楽学校卒業後、宝塚歌劇団入団。数々の舞台に出演。様々な役柄を演じると共に、歌、ダンス、日舞取得。退団後、舞台、映画、TV、ラジオ多数出演。ダンスインストラクターとして講師も務める。日舞は花柳君乃安の名取取得。(全14回)				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

日常において、自分がどう見られているのか、そして、自分はどう見せたいのかを一度立ち止まって考え、客観視をする。もう一人の自分が自分自身を見つめ、自分の行動、言動にきちんと責任を持って進んで行く。あらゆる角度から色々なもの、自分自身を見ることが出来ると視野がどんどん広がり、色々なものが見え、色々な感情が湧いてきて、言葉で伝えたくなります。舞台パフォーマンスで培った基本をベースにお芝居を通し、感情豊かで心の広い人間性へと成長出来るお手伝いが出来ればと考えています。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2.専門的知識・技能、職業理解	歌、ダンス、芝居	五感の向上と自覚持ち進むことが出来る。
汎用的な力		
1. DP6.行動・実践		自分自身のキャラクターについて考えることができる。
2. DP9.役割理解・連携行動		相手を思いやり、距離感を測りながら芝居をすることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「ー」(評価しない)とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内課題	50 %	： 毎回の課題をどれだけ理解し、演じようとしているか。
授業態度	30 %	： 挨拶、マナー等守られているか。他の人の実演もマナー良く見学しているか。積極的に参加しているか。
試験(発表)	20 %	： どれだけ読解力をもって挑んでいるか。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業中に指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると４時間の授業外学習が求められる。授業外学習に取り組むことに加え、その回の授業内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

備考・注意事項： 授業の前後に質問に応じます。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**発声、歌稽古、大芝居：キャラクターについて考える。** 時代考証、キャラクターについて考える。	それぞれのキャラクターに合った台詞回しの反復練習をする。	4時間
第２回	**発声、歌稽古、大芝居：大きく演じる** 衣装や大舞台で演じることを想定したり、観客に伝わる演じ方について考える。	台詞回しの反復練習をし、体に叩き込む。	4時間
第３回	**発声、歌稽古、大芝居：見せ方** 大舞台で伝える演じ方について考える。キャラクターを大きく演じる。	台詞の反復練習をし、楽しむ。	4時間
第４回	**発声、歌稽古、ダンス：リズムを感じる** 体全体を使ってダンスをする。リズムを感じる。	振りの反復練習をする。	4時間
第５回	**発声、歌稽古、ダンス：身体で覚える** 振りを体で覚え、音楽を感じながら踊る。	振りの反復練習をし、感情も同時に作り上げていく。	4時間
第６回	**発声、歌稽古、ダンス：感情をのせて踊ることを考える。** 音楽にのせて、感情表現しながら踊る。	心も体も開放し、振りの中に感情移入しながら踊る。次の課題に目を通す。	4時間
第７回	**発声、歌稽古、大芝居：キャラクターの立ち振る舞いについて考える** 大芝居の型について学ぶ。舞台考証や、それぞれのキャラクターの所作、立ち振る舞いについて考える。	所作と台詞回しの反復練習をする。感情移入をする。	4時間
第８回	**発声、歌稽古、大芝居：所作を大きく振る舞うことを学ぶ** 歩き方、挨拶の仕方等、所作を大きく優雅に振る舞うことに、少しずつ慣れる。動作も台詞も大きく演じる。	所作と台詞回しの反復練習をする。観客側のことも考えながら作りこむ。	4時間
第９回	**発声、歌稽古、大芝居：大胆に演じることを学ぶ** 様々な役を演じ分ける。思い切り演じる。役に成り切って唄う。	所作と台詞回しの反復練習をする。感情、動作も一体化させ作りこむ。	4時間
第10回	**発声、歌稽古、大芝居：表現について考える** 大きく芝居をする。表現を大きくし、動作も大きくし、流れるように、歌うように、優雅に演じ切る。	演じる相手のことも考え演じる。次回の課題に目を通す。	4時間
第11回	**発声、歌稽古、コミカル芝居：キャラクターについて考える** 様々なキャラクターについて考える。演じる。	登場人物のキャラクターを作り上げる。台詞の反復練習をする。	4時間
第12回	**発声、歌稽古、コミカル芝居：印象深くする演技について考える** 様々なキャラクターを色濃く演じ、印象を残せるように考える。	相手の反応を考え作りこむ。台詞の反復練習をする。	4時間
第13回	**発声、歌稽古、コミカル芝居：スムーズに演じる** 相手とのやり取りが、スムーズにいくように、テンポ良く思い切り演じる。演じる。	観ている人の反応も考え作りこむ。次の課題に目を通す	4時間
第14回	**まとめ：舞台表現、感情表現、キャラクター表現について考える** 台詞の課題を感情、キャラクターを考え演じ切る。心と体と感情を一体化して演じる。	授業内容を振り返る。将来の社会生活においても、思い切りが良く、心豊かで優しく、どんな時でも楽しめる人間になっていって欲しいです。	4時間

722

授業科目名	キャリアディベロップメント				
担当教員名	中野 澄				
学年・コース等	2回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本講義では、大阪成蹊学園の建学精神である「桃李不言下自成蹊」を目指し、品格ある言動を行うために必要な知識、実践につながる考え方、実践を伴った自らの言動への振り返り、今後目指すべきものなどを自発的に考えていく。
授業におけるテーマは2回分で１テーマとし、少人数かつ日本人学生と海外留学生との協働が日常的であるという学科の特性を生かし、「人としてあるべき姿」「日本文化の中で生きていくために必要なこと」を柱に、異文化交流も意識しながら、「講義→個人作業またはグループワーク→全体交流→自学による事後課題」で授業を進める。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	６つのテーマについて、3か国の考え方を交流し、人としてあるべき品格について考え、実践する。	建学精神に基づくヒューマンスキルを身につける。
汎用的な力		
1. DP10.忠恕の心		建学精神に基づく品格ある行動を心掛ける。
2. DP6.行動・実践		見えやすい品格と見えにくい品格を常に意識し、自分の行動だけでなく他の人の行動に学ぶ姿勢を身につける。

学外連携学修

有り(連携先：大阪市中央区（予定）でのフィールドワーク)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」(評価しない)とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への参加態度	40 %	： 講義に対する理解、グループ協議での参画意識や、テーマ設定・研究計画の作成状況等を観察し、評価する。
授業内課題	30 %	： 個別または他者とともに取り組んだ創意工夫の過程をワークシート等を通して評価する。
成果発表	15 %	： 発表内容について他者評価を重視して評価する。

試験（レポート）　：　品格についての行動宣言とその理由について、本授業での学修内容を踏まえて記述する。

15　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

大阪成蹊短期大学　CAMPUS GUIDE BOOK

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。大阪市中央区のフィールドワークの際には、交通費が必要。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜３限

場所：　西館5階研究室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス　シラバス説明、建学の精神と行動指針について** ・本授業の概要及び進め方について学ぶ。 ・建学の精神と行動指針について、CAMPUS GUIDE BOOKで内容を確認するとともに、その重要性に関する講義を受け、自分の考えをワンペーパーにまとめる。	自分がこだわる品格ある言動について自国の文化も踏まえてまとめる。	4時間
第2回	**「挨拶」について考える** ・江戸時代の儒学者、広瀬淡窓「万善簿」についての説明 ・「挨拶」に関する自分の考えや思い出についての交流 ・「挨拶」に関する講義 ・「気持ちのよい挨拶」とはどんな挨拶かについてのグループ協議 ・次週までの「万善簿」の内容の確認	「万善簿」をつける。	4時間
第3回	**「気持ちのよい挨拶ができる」を実践する** ・「万善簿」の交流 ・学内フィールドワーク ・「挨拶」についての自分のこだわりのまとめとグループ交流	「万善簿」をつける。	4時間
第4回	**「ルール」と「マナー」について考える** ・「万善簿」の交流 ・「ルール」と「マナー」に関する講義 ・「ルール」に関する自分の考えや思い出についての交流 ・「マナー」に関する自分の考えや思い出についての交流 ・「ルールやマナーを大切にする」の「大切」とはだれにとってかについてのグループ協議 ・次週までの「万善簿」の内容の確認	「万善簿」をつける。	4時間
第5回	**「ルールとマナーを大切にする」を実践する** ・「万善簿」の交流 ・学内フィールドワーク ・「ルール」と「マナー」についての自分のこだわりのまとめとグループ交流	「万善簿」をつける。	4時間
第6回	**「身だしなみ」と「立ち居振る舞い」について考える** ・「万善簿」の交流 ・「身だしなみ」に関する自分の地域の思い出の交流 ・「立ち居振る舞い」に関する講義 ・大阪市内FWでの「身だしなみ」と「立ち居振る舞い」について自己決定する ・次週までの「万善簿」の内容の確認	「万善簿」をつける。	4時間
第7回	**「丁寧な言葉遣いができる」を実践する** ・「万善簿」の交流 ・「言葉遣い」に関する講義 ・特別講師による講演 ・「言葉遣い」に関するテスト ・「言葉遣い」に関する実践 ・次週までの「万善簿」の内容の確認	「万善簿」をつける。	4時間
第8回	**大阪市内フィールドワーク　実地調査（集団行動）** ・「気持ちのよい挨拶ができる」を実践するとともに社会人の行動に学ぶ ・「ルールとマナーを大切にする」を実践するとともに社会人の行動に学ぶ ・「身だしなみや立ち居振る舞いに気をつける」を実践するとともに社会人の行動に学ぶ	「万善簿」をつける。	4時間
第9回	**大阪市内フィールドワーク　実地調査（個人行動）**	「万善簿」をつける。	4時間

	・「気持ちのよい挨拶ができる」を実践するとともに社会人の行動に学ぶ ・「ルールとマナーを大切にする」を実践するとともに社会人の行動に学ぶ ・「身だしなみや立ち居振る舞いに気をつける」を実践するとともに社会人の行動に学ぶ		
第10回	**「思いやり」と「コミュニケーション」について考える** ・「万善簿」の交流 ・「思いやり」に関する講義 ・「思いやり」に関する自分の思い出（日本人学生） ・日本にきて「思いやり」を実感した場面（海外留学生） ・「思いやり」と「コミュニケーション」の関係についてグループ協議 ・次週までの「万善簿」の内容の確認	「万善簿」をつける。	4時間
第11回	**「思いやりをもったコミュニケーションができる」を実践する** ・「万善簿」の交流 ・学内フィールドワーク ・次週までの「万善簿」の内容の確認	「万善簿」をつける。	4時間
第12回	**「意思」について考える** ・「万善簿」の交流 ・「意思」に関する講義 ・「自分の生き方」についてまとめ、交流する ・次週までの「万善簿」の内容の確認	「万善簿」をつける。	4時間
第13回	**「自分の意思や考えを持つ」を検索する** ・「万善簿」の交流 ・学内フィールドワーク ・次週までの「万善簿」の内容の確認	「万善簿」をつける。	4時間
第14回	**私の品格宣言** ・「万善簿」の交流 ・本授業の概要及び進め方について振り返る。 ・建学の精神と行動指針について、CAMPUS GUIDE BOOKで内容を確認するとともに、その重要性に関する講義を受け、自分の考えをワンペーパーにまとめなおす。	「万善簿」をつける。	4時間

722

授業科目名	**英語スピーキング　アドバンス**				
担当教員名	工藤 律子				
学年・コース等	2回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	幼・小・中・高において、グラマー指導やコミュケーションで必要な英語の指導を２０年行ってきました。また、カリキュラム作成や１２年間一貫教育の内容にも携わってきました。（全１４回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

Communications 5 に引き続き、本科目では、ナショナルジオグラフィックのコンテンツやTED TALK のプレゼンテーションを題材として、実在する人々や場所で交わされる生きた英語に触れながら、日常英会話に必要な聴解力・表現力を伸ばすことを目的とします。各授業では、自然な速度の英語を多く聞き、英語特有のリズムやイントネーションを理解するように努めます。また、題材に用いられている基本語彙や表現、文法項目を学習し、それらを用いて自分の意見を表現できるように、スピーキング練習や英作文を実施します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	日常的な英会話能力、英語聴解能力、英文読解能力、英作文能力	身近な日常生活について、英語で理解し表現することができる。世界で起こっている様々な話題を学び、異文化理解を深めることができる。
汎用的な力		
1. DP8.意思疎通		各授業内でのペアワーク、グループワークを通じて、英語で自分のことを説明し理解してもらうことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「ー」(評価しない)とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
小テスト	20 %	： 既習事項に関するテストを行います。
小レポート	30 %	： 授業に関する内容や文法に関するレポートを飼います。
グループ発表	20 %	： 授業内で用いた英語の語彙や表現を応用して、TED TALKを参考に、グループプレゼンテーションを実施します。第14回の授業日に行い、評価の20%とします。
期末レポート	30 %	： 第14回の授業後に日英両方のレポートを行います。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Kristin L. Johannsen, Rebecca Tarver Chase	・World English 3 Second Edition	・Cengage Learning	・2015 年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業前・授業後

場所： 研究室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**オリエンテーション、Unit 7（前半） Getting Around** ・授業の進め方や評価方法について確認します。 ・世界の地理、気候、主要産物に関する語彙や表現を学びます。 ・現在形と現在進行形、過去形の時制の違いを学びます。	Unit 7 で学習した単語・表現を復習し、第２回から始まる小テストに備えます。Unit 7 のリーディングに出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第２回	**Unit 7（後半） The Rickshaws of Kolkata** ・食文化についての英文を読解します。 ・自分の住んでいる地域の食について表現できるように、英会話の練習をします。 ・ナショナルジオグラフィックの映像を視聴し、内容についてクラスで議論します。	Unit 7で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 8に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第３回	**Unit 8（前半）Competition** ・世界の文化、コミュニケーション、ジェスチャーに関する語彙や表現を学びます。 ・現在完了形の時制を使った表現を学びます。	Unit 8で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 8 のリーディングに出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第４回	**Unit 8（後半）In Sports, Red is the Winning Color** ・世界の文化についての英文を読解します。 ・初めて会う人とスモールトークができるように、英会話の練習をします。 ・ナショナルジオグラフィックの映像を視聴し、内容についてクラスで議論します。	Unit 8 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 9 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第５回	**Unit 9（前半）Danger** ・世界の都市生活や地図の読み方に関する語彙や表現を学びます。 ・助動詞willと時を表す句を用いた表現を学びます。	Unit 9 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 9 のリーディングに出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第６回	**Unit 9（後半）Three Things I Learned While My Plane Crashed** ・都市生活と食についての英文を読解します。 ・自分の都市生活についての見解を伝えられるように、英会話の練習をします。 ・ナショナルジオグラフィックの映像を視聴し、内容についてクラスで議論します。	Unit 7-9 で学習した単語・表現を復習し、Review Quizに備えます。	4時間
第７回	**ワークショップ** 外部の方を招いて課題解決型のワークショップを実施する。	Unit10 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第８回	**Unit 10（前半）Mysteries** ・人間の身体構造や病気に関する語彙や表現を学びます。 ・比較級や不定詞を用いた表現を学びます。	Unit 10で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 10 のリーディングに出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第９回	**Unit 10（後半）Hands Across Time** ・人間と微生物についての英文を読解します。 ・自分の病状を伝えられるように、英会話の練習をします。 ・ナショナルジオグラフィックの映像を視聴し、内容についてクラスで議論します。	Unit 10で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 11 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第10回	**Unit 11（前半）Learning**	Unit 11 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 12 のリーディングに出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間

	・物理的、精神的な挑戦に関する語彙や表現を学びます。 ・過去形と過去進行形の違い、enoughを用いた表現を学びます。		
第11回	**Unit 11（後半）Five Dangerous Things (You Should Let Your Children Do)** ・北極でのある挑戦についての英文を読解します。 ・自分のこれまでの挑戦について表現できるように、英会話の練習をします。 ・ナショナルジオグラフィックの映像を視聴し、内容についてクラスで議論します。	Unit 11で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 12 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第12回	**Unit 12（前半）Space** ・人生の段階に関する語彙や表現を学びます。 ・現在完了形、How + 形容詞を用いた表現を学びます。	Unit 12 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 12 のリーディングに出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第13回	**Unit 12（後半）The Hubble Space Telescope** ・自分の限界に対する挑戦についての英文を読解します。 ・自分の人生の段階に起きた出来事について話すために、英会話の練習をします。 ・ナショナルジオグラフィックの映像を視聴し、内容についてクラスで議論します。	Unit 10-12 で学習した単語・表現を復習する。プレゼンテーションの準備をする。	4時間
第14回	**プレゼンテーション** ・これまでの学習内容から課題をひとつ選び、プレゼンテーションを行います。	プレゼンテーションの内容を振り返り、再構成します。	4時間

722

授業科目名	**英語スピーキング　アカデミック**				
担当教員名	**麻畠 徳子**				
学年・コース等	2回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「可」

授業概要

本科目では、アカデミックレベルの英会話力を身につけることを目的とします。アカデミックレベルとは、母語で論理的に思考し、自分の意見を論述できるように準備した上で、それを英語で的確に伝え、議論することのできるレベルを指します。各授業では、「今日における賛否両論」をテーマに、事例学習、語彙学習、内容把握課題を通じて、各テーマについて自分が賛成・反対のどちらの立場かを、日本語と英語で論理的に思考していきます。最終的には英語表現の正確さと共に流暢さも意識して英語で議論できるようになることを目的とします。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	英会話能力、英語聴解能力	自信を持って英語でコミュニケーションをとることができる。場面に応じた適切な表現を使い分けることができる。
汎用的な力		
1. DP8.意思疎通		各授業内でのペアワーク、グループワークを通じて、英語で自分の意見を主張し理解してもらうことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「－」(評価しない)とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
毎回の小テスト（語彙・ディクテーション）	20 %	： 毎回、授業の初めに既習単元の小テストを実施します。20点満点の小テストの平均を評価の20%とします。
Review Quiz	30 %	： 第7,14回の授業で、既習単元の理解度を確認するReveiw Quizを実施します。その結果の平均を評価の30%とします。
ディベート課題	30 %	： 複数回にわたってディベート課題を課します。主張の的確さ、説得力および課題に取り組む姿勢を基準に、5段階で評価します。発表評価点の平均を評価の30%とします。
定期試験	20 %	： 試験期間中に既習単元に基づいた実力テストを実施し、その結果を評価の20%とします。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

① 阿部公彦・著、『理想のリスニング』（東京大学出版会）
② 高山芳樹・監修、『リスニング×スピーキングのトレーニング』（Z会）
③ 長尾和夫ほか・著『英語で話す力。』（三修社）
④ 関正夫・著『世界一わかりやすい英語の発音の授業』（中経出版）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜1限

場所： 研究室（西館5階）

備考・注意事項： メールアドレス：asahata@osaka-seikei.ac.jp

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**オリエンテーション、 発音の基本法則** ・授業の進め方や評価方法について確認します。 ・英語を話すうえで気を付けるべき発音の基本法則について学びます。	第1回 で学習した単語・表現を復習し、第2回から始まる小テストに備えます。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第２回	**【Society】Do you support gay marriage?** ・「同性婚」のテーマについて、賛否の意見を理解し、要点をまとめます。 ・自分の考えをまとめ、その立場をとる根拠を考えます。 ・ディスコースマーカーを使って論理展開する表現を学びます。	第2回 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第３回	**【Society】Are you for capital punishment?** ・「死刑」のテーマについて、賛否の意見を理解し、要点をまとめます。 ・自分の考えをまとめ、その立場をとる根拠を考えます。 ・追加の表現を学びます。	第3回で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第４回	**【Society】Are you in favor of euthanasia?** ・「安楽死」のテーマについて、賛否の意見を理解し、要点をまとめます。 ・自分の考えをまとめ、その立場をとる根拠を考えます。 ・強調の表現を学びます。	第4回 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第５回	**【Value】Should men and women be expected to play the same social roles?** ・「ジェンダーロール」のテーマについて、賛否の意見を理解し、要点をまとめます。 ・自分の考えをまとめ、その立場をとる根拠を考えます。 ・比較・対照の表現を学びます。	第５回 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第６回	**【Value】Do you think that married people live happier lives than single people?** ・「結婚制度」のテーマについて、賛否の意見を理解し、要点をまとめます。 ・自分の考えをまとめ、その立場をとる根拠を考えます。 ・自分の個人的な考えを、論拠に組み込む表現を学びます。	第1～６回 で学習した単語・表現を復習し、Review Quizに備えます。発表課題の練習をしておきます。	4時間
第７回	**【小括】第1-6 を振り返る、課題発表①** ・これまでの学習内容を振り返り、ポイントを整理します。 ・Reveiw Quizを通じて、自分の理解が足りないところを把握し、今後の学習課題を掲げます。 ・第1～6回の学習内容を踏まえ、一つの議論を選択し、ディベート課題を実施します。	発表のフィードバックをもらい、次の発表の改善につなげます。次の単元に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第８回	**【Value】Would you prefer to spend your last years in an elderly care facility?** ・「老後」のテーマについて、賛否の意見を理解し、要点をまとめます。 ・自分の考えをまとめ、その立場をとる根拠を考えます。 ・必然性の表現を学びます。	第８回 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第９回	**【Education】Should English education start from the first year of elementary school?** ・「英語の早期教育」のテーマについて、賛否の意見を理解し、要点をまとめます。 ・自分の考えをまとめ、その立場をとる根拠を考えます。 ・意見・感想を述べる表現を学びます。	第９回 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間

第10回	【Education】Is it better for Japanese to learn native English than to learn global English? ・「グローバル言語」のテーマについて、賛否の意見を理解し、要点をまとめます。 ・自分の考えをまとめ、その立場をとる根拠を考えます。 ・例を挙げる表現を学びます。	第10回 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第11回	【Education】Do Japan need to bring in more internation students? ・「留学生の受け入れ」のテーマについて、賛否の意見を理解し、要点をまとめます。 ・自分の考えをまとめ、その立場をとる根拠を考えます。 ・場合・状況に関する表現を学びます。	第11回 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第12回	【Jobs】Is a merit system better than s seniority system at work? ・「終身雇用制と能力主義」のテーマについて、賛否の意見を理解し、要点をまとめます。 ・自分の考えをまとめ、その立場をとる根拠を考えます。 ・推量に関する表現を学びます。	第12回 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第13回	【Job】Should people be forced to retire at a certain age? ・「定年退職・働き方」のテーマについて、賛否の意見を理解し、要点をまとめます。 ・自分の考えをまとめ、その立場をとる根拠を考えます。 ・視点・状況判断に関する表現を学びます。	第8～13回 で学習した単語・表現を復習し、Review Quizに備えます。発表課題の練習をしておきます。	4時間
第14回	【小括】第7～13回を振り返る ・これまでの学習内容を振り返り、ポイントを整理します。 ・Reveiw Quizを通じて、自分の理解が足りないところを把握し、今後の学習課題を掲げます。 ・第7～13回の学習内容を踏まえ、一つの議論を選択し、ディベート課題を実施します。	これまで学習してきた内容を復習し、最終試験の対策をしておきます。	4時間

722

授業科目名	**英米の文学**				
担当教員名	麻畠 徳子				
学年・コース等	2回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「可」

授業概要

明治時代、文明開化により流れ込んできた欧米文化の波が日本の文化に大きな影響を及ぼしました。小説もそのひとつです。夏目漱石をはじめとする明治の文豪たちは、西洋の小説に触れ、それを自分たちの文体に取り込んでいきました。本科目では、日本の小説に影響を与えた西洋の小説のなかでも、他のヨーロッパ諸国に先駆けて近代小説が誕生したといわれる18世紀イギリスに注目し、それがどういう観点で「誕生」といえるのか、またどのような歴史的な過程を経て成立していったのかについて、具体的な小説作品を取り上げながら見ていきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	18世紀イギリス小説史に関する知識	18世紀イギリスにおいて近代小説が誕生した歴史的背景を理解し、そうした散文芸術の文化的意義について考察することができる。
汎用的な力		
1. DP4.課題発見		課題図書を読み、各作品が成立した歴史的文脈を理解した上で、現代における文学の衰退について問題点を検討することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「－」(評価しない)とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
毎回の小テスト	60 %	： 毎回（第６回、第１０回は除く）の授業のはじめに、それまでの講義内容についての理解度を測る、参照可の小テストを実施します。それぞれ5点満点とし、１２回全部で評価の６０％とします。
論述型の小レポート	30 %	： 参照不可の論述型の小レポート（第６回、第１０回の授業内に実施）について、講義内容の理解と考察の独自性をもとに採点します。それぞれ10点満点とし、2回で評価の３０％とします。
期末レポート	10 %	： 第14回の講義のあと、講義内容の理解に基づいて講義で扱った作品を一つ取り上げ、それについての考察を課し、独自性が見られるかどうかを基準に採点します。期末レポートは評価の10%とします。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

① 『ロビンソー・クルーソー（上）（下）』、平井正穂（訳）、岩波文庫（1967）
② 『ガリヴァー旅行記』、平井正穂（訳）、岩波文庫（1980）
③ 『パミラ、あるいは淑徳の報い』、原田範行（訳）、研究社（2011）

④ 『トム・ジョウンズ（一）（二）（三）（四）』、朱牟田夏雄（訳）、岩波文庫（1952）
⑤ 『トリストラム・シャンディ（上）（中）（下）』、朱牟田夏雄（訳）、岩波文庫（1969）
⑥ 『オトラント城』、千葉康樹（訳）、研究社（2012）
⑦ 『フランケンシュタイン』、小林章夫（訳）、光文社（2010）
⑧ 『ノーザンガー・アビー』、中野康司（訳）、ちくま文庫（2009）
⑨ 『高慢と偏見』、小尾芙佐（訳）、光文社（2011）
⑩ 『ジェイン・エア（上）（下）』、小尾芙佐（訳）、光文社（2006）
⑪ 『嵐が丘（上）（下）』、小野寺健（訳）、光文社（2010）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜1限

場所： 研究室（西館5階）

備考・注意事項： メールアドレス：asahata@osaka-seikei.ac.jp

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**はじめに：イギリス近代小説の「誕生」における歴史的文脈** ・授業の進め方、評価方法の確認をします。 ・イギリス近代小説が誕生した歴史的背景を概観します。 ・課題図書を指示します。	『ロビンソン・クルーソー』について、あらすじや時代背景などを下調べしておきます。 イギリス近代小説が誕生した歴史的背景について、1000字程度でまとめられるように講義内容を整理しておきます。	4時間
第2回	**黎明期①：ダニエル・デフォー『ロビンソン・クルーソー漂流記』（1719）とジャーナリズム** ・近代小説というジャンルが確立する以前の小説を読みます。 ・デフォーの経歴と作品との関係を学びます。 ・ジャーナリズムと小説の起こりの関連性を学びます。	『ガリヴァー旅行記』について、あらすじや時代背景などを下調べしておきます。 第２回の講義内容について、３００字程度でまとめられるようにノートに整理しておきます	4時間
第3回	**黎明期②：ジョナサン・スウィフト『ガリヴァー旅行記』（1726）と植民地支配** ・近代小説というジャンルが確立する以前の小説をもうひとつ読みます。 ・デフォーのライバル的存在であったスウィフトの経歴とその作品を学びます。 ・小説と現実の関連性を学びます。	『パミラ』について、あらすじや時代背景などを下調べしておきます。第３回の講義内容について、３００字程度でまとめられるようにノートに整理しておきます。	4時間
第4回	**勃興期①：サミュエル・リチャードソン『パミラ』（1740）と書簡文化** ・近代小説の父と呼ばれるリチャードソンの経歴と作品について学びます。 ・書簡体小説とは何かを学びます。	『トム・ジョーンズ』について、あらすじや時代背景などを下調べしておきます。 第４回の講義内容について、３００字程度でまとめられるようにノートに整理しておきます。	4時間
第5回	**勃興期②：ヘンリー・フィールディング『トム・ジョーンズ』（1749）と古典主義** ・リチャードソンのライバル的存在であったフィールディングの経歴と作品について学びます。 ・三人称小説という小説の語りの技法について学びます。	第１～４回の講義内容について、２０００字程度でまとめられるようにノートに整理しておきます。 第６回の授業内で実施する論述小テストのために復習しておきます。	4時間
第6回	**リチャードソンとフィールディング：小説技法の比較、これまでの振り返り** ・リチャードソンとフィールディングの語りの技法のメリット、デメリットについて学びます。 ・第１～５回までの内容を振り返り、学習内容が理解できているか、またどのような意見をもったかを確認する小テストを実施します。	『トリストラム・シャンディ』について、あらすじや時代背景などを下調べしておきます。 第６回の講義内容について、３００字程度でまとめられるようにノートに整理しておきます。	4時間
第7回	**展開期①：ローレンス・スターン『トリストラム・シャンディ』（1759―67）と観念連合** ・近代小説が勃興した以降の小説の展開を見ていきます。 ・メタ小説とよばれる作品『トリストラム・シャンディ』の内容と、スターンの経歴について学びます。 ・メタ小説とは何かを理解します。	『オトラント城』について、あらすじや時代背景などを下調べしておきます。第７回の講義内容について、３００字程度でまとめられるようにノートに整理しておきます。	4時間
第8回	**展開期②：ホレス・ウォルポール『オトラント城』（1765）とゴシック・リバイバル** ・ゴシック・ロマンスというジャンルの流行について学びます。 ・ゴシック・ロマンスの火付け役であるウォルポールの経歴と、その作品について学びます。	『フランケンシュタイン』について、あらすじや時代背景などを下調べしておきます。 第８回の講義内容について、３００字程度でまとめられるようにノートに整理しておきます。	4時間
第9回	**展開期③：メアリー・シェリー『フランケンシュタイン』(1818)と女流作家**	第５～９回の講義内容について、２０００字程度でまとめられるようにノートに整理しておきます。第１０回の授業内で実施する論述小テストのために復習しておきます。	4時間

	・ゴシック・ロマンスの流行と『フランケンシュタイン』の関連性を学びます。 ・メアリー・シェリーの経歴とその作品の関係について学びます。		
第10回	**ゴシック・ロマンスとオースティン：小説というジャンル意識の確立、これまでの振り返り** ・ゴシック・ロマンスの流行とオースティン作品の関連性について学びます。 ・第６～９回までの内容を振り返り、学習内容が理解できているか、またどのような意見をもったかを確認する小テストを実施します。	『ノーザンガー・アビー』について、あらすじや時代背景などを下調べしておきます。第１０回の講義内容について、３００字程度でまとめられるようにノートに整理しておきます。	4時間
第11回	**円熟期①：ジェイン・オースティン『ノーザンガー・アビー』(1818)とパロディ意識** ・近代小説の母と呼ばれるオースティンの経歴と作品について学びます。 ・ゴシック・ロマンスという形式とオースティンの作風との関連性について学びます。	『高慢と偏見』について、あらすじや時代背景などを下調べしておきます。 第１１回の講義内容について、３００字程度でまとめられるようにノートに整理しておきます。	4時間
第12回	**円熟期②：ジェイン・オースティン『高慢と偏見』（1813）と中産階級意識** ・オースティンの代表作『高慢と偏見』の内容を学びます。 ・オースティンが確立した自由間接話法という小説技法について学びます。	『ジェイン・エア』について、あらすじや時代背景などを下調べしておきます。 第１２回の講義内容について、３００字程度でまとめられるようにノートに整理しておきます。	4時間
第13回	**円熟期③：シャーロット・ブロンテ『ジェイン・エア』（1847）と結婚制度** ・小説というジャンルが確立した以降の発展を辿っていきます。 ・自伝的小説といわれる『ジェイン・エア』とシャーロット・ブロンテの経歴について学びます。 ・小説のテーマ性というものが生まれてきた過程を辿ります。	『嵐が丘』について、あらすじや時代背景などを下調べしておきます。第１３回の講義内容について、３００字程度でまとめられるようにノートに整理しておきます。	4時間
第14回	**円熟期④：エミリ・ブロンテ『嵐が丘』（1847）とロマン主義** ・シャーロット・ブロンテの妹、エミリ・ブロンテの生涯唯一の作品を読みます。 ・エミリ・ブロンテとロマン主義の関連性について学びます。 ・『嵐が丘』における小説のテーマ性の追求について学びます。	第１～１４回の講義内容について、それぞれ３００字程度でまとめられるようにノートに整理しておきます。最終の論述型レポートのために復習しておきます。	4時間

722

授業科目名	**漢字の世界**				
担当教員名	浅野 法子・中野 澄				
学年・コース等	2回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「可・不可」

授業概要

本授業では、高校までに身につけた漢字の知識を土台として、大学・一般程度の漢字を学ぶ。単に漢字を「読む」「書く」という知識を習得するだけでなく、漢字の意味を理解し、適切に運用できる能力を身に付けるために、日本語教育能力検定試験の出題範囲のうち出題頻度の最も高い分野である「言語一般」の「文字と表記」についても学ぶ。また、漢字の起源にも触れるため、中国語の表記についても学び、中国語の運用についても検討する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2.専門的知識・技能、職業理解	漢字についての深い理解と専門知識	漢字の意味と使い方を理解し、適切に運用することができる。
2. DP2.専門的知識・技能、職業理解	文字・表記についての深い理解と専門知識	文字・表記に関する重要用語とその内容を理解することができる。
汎用的な力		
1. DP8.意思疎通		漢字を適切に運用することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「ー」(評価しない)とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への取り組み	30 %	： 授業への参加を積極的に行い、コメントカードや各回提出物で評価する
課題	30 %	： 授業内容に基づいたレポート課題を課し、それを採点する
期末レポート	40 %	： 漢字の知識等を含め、期末レポートを課し、それを採点する

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

日本語教育能力検定試験に興味がある場合は、ヒューマンアカデミー『日本語教育能力検定試験 完全攻略ガイド』（翔泳社、2014年／ISBN978-4798167190）が参考になる。その他の参考文献は授業中に指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の授業であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。確認テストや期末テストに備え、各回の内容を復習しておくこと。また、授業内マナーを守り、積極的に授業に参加すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： オフィスアワー

場所： 西館4F研究室

備考・注意事項： 授業の前後やオフィスアワーに研究室へお越しください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**漢字の世界への招待** 授業で学ぶ内容について紹介し、日本における漢字の成り立ちを学び、創作漢字の作成を行う	創作漢字を作ってくること	4時間
第２回	**漢字の始まり** 中国における漢字の始まりを歴史を踏まえて学び、表意文字と表語文字の違いを理解する	表意文字と表語文字について事前学習を行うこと	4時間
第３回	**漢字の書体と分類** 漢字の歴史を踏まえて様々な書体を学び、漢字の六分類について理解する	自分の名前を篆書体で作る	4時間
第４回	**漢字と中国語の読み方** 漢字の音読みと訓読みと中国語での読み方について学び、間違いやすい読み方や難読の読み方を学ぶ	漢字の音読と訓読について事前学習を行うこと	4時間
第５回	**中国語での文章作成** 中国語の短文を読解するとともに、それに関する要約を中国語で表現する。	指示された刺激作成課題を行うこと	4時間
第６回	**漢字検定について** 漢字検定について知り、具体的な問題を解きながら実践的に学んでいく	漢字検定について事前学習を行うこと	4時間
第７回	**日本語文法と漢字　格助詞・副助詞** 日本語文法の付属語領域における分類や意味の表示について理解し、実際の用法についても学ぶ 漢字検定の過去問などを中心に、抑えておくべき漢字問題について学ぶ	提示される過去問を解いておくこと	4時間
第８回	**日本語文法と漢字　接続助詞・終助詞** 日本語文法の付属語領域における分類や意味の表示について理解し、実際の用法についても学ぶ 漢字検定の過去問などを中心に、抑えておくべき漢字問題について学ぶ	指示される過去問を解いておくこと	4時間
第９回	**日本語文法と漢字　助動詞　使役・受け身・自発・可能・尊敬** 日本語文法の付属語領域における分類や意味の表示について理解し、実際の用法についても学ぶ 漢字検定の過去問などを中心に、抑えておくべき漢字問題について学ぶ	指示される過去問を事前に解いておくこと	4時間
第10回	**日本語文法と漢字　助動詞　希望・否定・打消・推量・意志・勧誘** 日本語文法の付属語領域における分類や意味の表示について理解し、実際の用法についても学ぶ 漢字検定の過去問などを中心に、抑えておくべき漢字問題について学ぶ	指示される過去問を事前に解いておくこと	4時間
第11回	**日本語文法と漢字　助動詞　過去・完了・存続・想起** 日本語文法の付属語領域における分類や意味の表示について理解し、実際の用法についても学ぶ 漢字検定の過去問などを中心に、抑えておくべき漢字問題について学ぶ	指示される過去問を事前に解いておくこと	4時間
第12回	**日本語文法と漢字　助動詞　丁寧・断定・推定・比喩・例示・様態** 日本語文法の付属語領域における分類や意味の表示について理解し、実際の用法についても学ぶ 漢字検定の過去問などを中心に、抑えておくべき漢字問題について学ぶ	指示される過去問を事前に解いておくこと	4時間
第13回	**日本語文法と漢字　助動詞　伝聞・否定意志・否定推量** 日本語文法の付属語領域における分類や意味の表示について理解し、実際の用法についても学ぶ 漢字検定の過去問などを中心に、抑えておくべき漢字問題について学ぶ	指示される過去問を事前に解いておくこと	4時間
第14回	**漢字のまとめ** これまでに学んだ様々な漢字についてまとめなおし、漢字検定の過去問を解いていく	これまでのレジュメや過去問を完成させること	4時間

821

授業科目名	ビジネスマナーⅡ				
担当教員名	萬 智子				
学年・コース等	1回生　経営会計コース・医療事務コース	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	・メーカーの営業部門にて営業事務及び庶務的業務に従事（1～7回） ・大学・専門学校にてキャリアデザイン講座を担当（8回～14回） ・大学・専門学校にてビジネスマナー講座を担当（全14回）				

開放科目の指示：「可」

授業概要

ビジネスマナーⅠに引き続き、社会人として必要な考え方や知識を再確認し、社会で必要なビジネス慣習（慶事・弔事・贈答）の知識、社会人として相応しい話し方・聞き方、事務職や秘書に必要な社内文書・社外文書・ファイリング・名刺・会議の知識をケーススタディで学びます。そして、授業で学んだ知識を実践できるように、適宜実技やロールプレイングを取り入れた授業を行います。この授業を通じて、自己表現力、コミュニケーション能力、他人を配慮した行動を実践できる力の修得を目指します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	前期で学んだビジネスマナーの知識をもとに実際に活用できるように実技を行いながら理解を深めます。	社会人の常識としてビジネスマナーを実践できる。

汎用的な力	
1. DP10.忠恕の心	他人への配慮や気配りができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席回数がなければ放棄とみなし「ー」(評価しない)とします
放棄とみなし、定期試験の受験を認めません。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
後期期末試験	60 %	： 期間中の内容を範囲とした定期試験を実施します。
小テスト	10 %	： 指定した内容を範囲とした小テストを講義中に実施します。
平常点	30 %	： 教員との授業中のやり取り、演習の取り組み姿勢、及びビジネススーツ着用、課題提出、日常の挨拶などの規則遵守を評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
杉本直鴻	・イラスト図解でスイスイわかる！秘書検定2級合格テキスト＆問題集	・ナツメ社	・　年
田野直美	・ビジネスでの常識集	・トータルマナー株式会社	・　年

参考文献等

公益財団法人実務技能検定協会「秘書検定2級実問題集」早稲田教育出版
公益財団法人実務技能検定協会「秘書検定２級新クリアテスト」早稲田教育出版

使用教科書の「ビジネスでの常識集」「イラスト図解でスイスイわかる！秘書検定2級合格テキスト＆問題集」は「ビジネスマナーⅠ」で使用しました。持っている場合は購入の必要はありません。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習を行うこと。

授業を受講するにあたってスーツ、パンプス/ 革靴 を着用してください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室または非常勤講師室

備考・注意事項： 授業の前後以外で質問したい場合は、こちらのメールアドレスに連絡（yorozu@g.osaka-seikei.ac.jp）。メールには必ず氏名と所属を明記すること。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス／授業の進め方／秘書の一般知識** 学習の目的・目標、学習の進め方、授業内のルール（身だしなみ、姿勢、態度、名指しされた時の答え方）について確認します。 その後、「秘書の一般知識」の総復習及び応用問題を解き、理解を深めます。	秘書の一般知識について問題を解きます	4時間
第2回	**秘書のマナー接遇の知識** 「秘書のマナー接遇の知識」の総復習及び応用問題を解き、理解を深めます。 「秘書の一般知識」のミニテスト、敬語のミニテストを行います。	秘書のマナー接遇の知識について問題を解きます	4時間
第3回	**秘書技能** 「秘書技能」の総復習及び応用問題を解き、理解を深めます。 「秘書のマナー接遇の知識」のミニテストを行います。	秘書技能について問題を解きます	4時間
第4回	**秘書の必要とされる資質・職務知識（基本の復習）** 「秘書の必要とされる資質」「職務知識」の復習問題を解き、理解を深めます。 「秘書技能」のミニテストを行います。	秘書の必要とされる資質・職務知識について問題を解きます	4時間
第5回	**秘書の必要とされる資質・職務知識（応用）** 「秘書の必要とされる資質」「職務知識」応用問題を解き、理解を深めます。 「秘書の必要とされる資質」「職務知識」のミニテストを行います。	これまで解いた問題をもう一度見直ししておきましょう	4時間
第6回	**これまでの総まとめ** これまでの総まとめの問題を解き、理解を深めます。	これまで解いた問題をもう一度解いておきましょう	4時間
第7回	**自己紹介のマナー／社会人に求められる立ち居振る舞い（基本）** 自己紹介をする際、どのような点に気をつけたらよいのか、自己紹介の際のマナーについて学びます。 社会人に求められる立ち居振る舞いについて再認識し、人前で話す際の表情、歩き方、お辞儀、話し方をチェックします。	1分間で話せる自己紹介を考えておきましょう。	4時間
第8回	**自己認識Ⅰ（他人からみた自分）／社会人に求められる立ち居振る舞い（挨拶とお辞儀）／1分間スピーチ** 今後自信をもって自己PRができるように、自分視点からと他人視点からの自分の良いところを見つめる「美点凝視」のワークを行います。 また、社会人に求められる立ち居振る舞いについて再確認し、きれいなお辞儀と挨拶が身に付いたかどうかのチェックをします。 なお、授業時間内に1分間の自己紹介スピーチの発表を行います（5～6名）	美点凝視で出た性格をPRできるエピソードに文章化しておきましょう	4時間
第9回	**自己認識Ⅱ（自己振り返り）／社会人に求められる立ち居振る舞い（ドアの扱い）／1分間スピーチ** 今後自信をもって自己PRができるように、自己振り返りシートを作成し自分を見つめなおします。 また、社会人に求められる立ち居振る舞いについて再確認し、ドアの扱い方を実技します。 なお、授業時間内に1分間の自己紹介スピーチの発表を行います（5～6名） 自己振り返りシートを仕上げてきます	自己振り返りシートを仕上げておきましょう	4時間
第10回	**自己PRを考える／社会人に求められる立ち居振る舞い（入室～退室）／1分間スピーチ**	自己PRを考えるプリントを仕上げておきましょう	4時間

	今後自信をもって自己PRができるように、自己振り返りシート・美点凝視の内容から、自己PRを作成します。 また、社会人に求められる立ち居振る舞いについて再確認し、部屋の入退室、挨拶、お辞儀などのロールプレイングを行いチェックをします。 なお、授業時間内に1分間の自己紹介スピーチの発表を行います（5～6名）		
第11回	**自己PRを文章化する／1分間スピーチ** ７回～１１回までのワークプリントを参考に、就職活動を想定した履歴書・自己紹介書を書いてみます。 なお、授業時間内に1分間の自己紹介スピーチの発表を行います（5～6名）	履歴書・自己紹介書を仕上げておきましょう	4時間
第12回	**自己PRの実践／1分間スピーチ** 就職面接での質疑応答を想定し、どのように答えるかを実技します。 なお、授業時間内に1分間の自己紹介スピーチの発表を行います（5～6名）	演習内容を復習し、次回以降の授業に備えましょう	4時間
第13回	**社会人に求められる立ち居振る舞い　総仕上げ** 就職面接を想定し、模擬面接を行います。 他人の実技を見て評価し、自分自身の振り返りの参考にします。	演習内容を復習し、次回以降の授業に備えましょう。	4時間
第14回	**社会に出る前に身につけたいビジネスマナー／総復習** 服装身だしなみ、言葉遣い、メールの書き方、電話、手紙やはがきの書き方、などを再確認します。 実際に封筒やはがきの宛名やお礼状を書いてみます。 定期試験についての指示も行います。	定期試験へむけて学習しましょう	4時間